

天享吾妻隨

自天正三年正月  
至今十年七月

四

内閣文庫	
番號	和 35015
冊數	74 ( 4 )
函號	150 53

内閣文庫	和書類
三九〇一五	號
七四	冊
一五〇函	一
一	架

共七十四





天享吾妻 臨鑑

自十六  
至二十

四



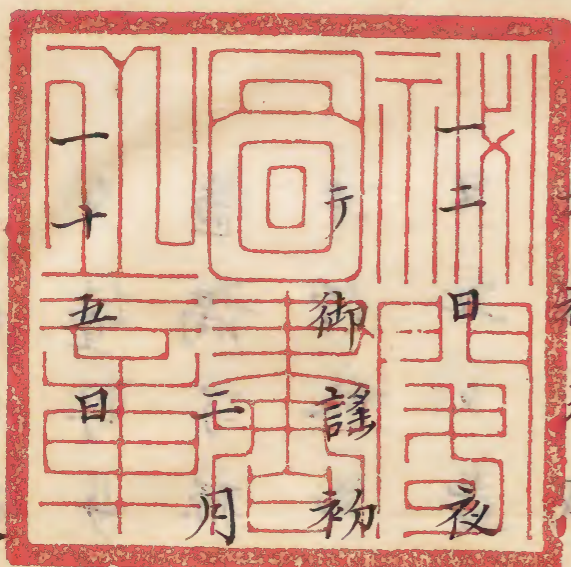
天...  
...  
...

天享吾妻鑑



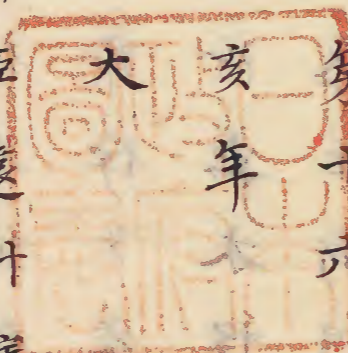
乙亥年正月

大神君



了。リ之

第十六



群臣

遠州濱松

城

二登

于



二日

入例

如夕

濱松

城三

御謠

了

リ

諸士

参賀

二月

小

大神君

濱松

城下

十五日

大神君

濱松

城下

二御放鷹

路邊

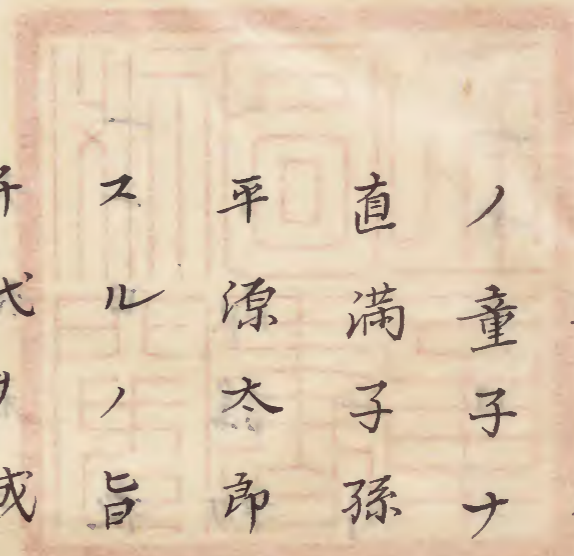
二

大神君

井伊萬千



代于肥十直改ト号ス見給ヒ誰力家  
ノ童子ナルノ由ヲ問給フ井伊信濃守  
直満子孫肥後守直親力愚子也継父柁  
平源太郎力好ニ依テ御城下ニ誓去  
スルノ旨ヲ連ス台聽驚力ニ即千万  
千代ヲ城ニ召テ麾下ニ属ス井伊ノ答  
一先租歴代ノ旧領タルニ依テ万千代  
ニ給フテ井伊ノ谷三人衆及ヒ典力ノ  
士ヲ附ラルル木俊清左衛門掾次右  
衛門西郷藤左衛門ヲシテ万千代ニ付



一十八日前夜天野三郎兵衛康景力下  
女連歌ノ發句ヲ夢ル吉兆タルニ依テ  
康景今朝大神君ニ披露ス今月廿日  
御鎧ノ賀儀アリ此日連歌ノ達者ヲ召  
テ彼ノ發句ヲシテ百韻ノ連歌ヲナサ  
シメ給フ此年ノ夏長篠ノ軍ニ大神  
君大ヒニ利ヲ得玉ヒテ武田力臣ヲ多  
ク討捕リ給フ是ヨリ嘉例トシテ三月  
廿日ニ連歌ノ會ヲ催サシメ玉フ



一廿八日 大神君奥平九八郎ヲ参州長  
孫ノ城主ニ命ス去々年ヨリ番城ニテ  
當城破損ノ慶ニ九八郎普請丈夫ニシ  
テ相拘工 大神君大ニ御感アリ  
或説ニ當年二月奥平九八郎ヲ長篠  
ノ城へ入玉フ  
四月大  
一五日 勝頼兵ヲ卒メ遠州平山ヲ経テ  
一参加宇利ニ至ル 大神君ノ奴僕大賀  
彌四郎ト云者アリ早賤ノ者タリト云

一氏舊功普代ノ者タルニ依テ奥郡ニ  
十余郷ノ代宜職ニナサレ参富子孫繁  
栄ニテ君恩厚キノ慶ニ不義ニメ野心  
ヲ企テ倉地平右衛門山田八藏小吉甚  
右衛門ト興ニテ武田勝頼ニ志ヲ通シ  
参加岡崎ノ城ニ甲州ノ兵ヲ引入レシ  
ト謀ル勝頼大ニ悦テ其約ヲ定メ既ニ  
兵ヲ岡崎ニ發セシトス于辰山田八藏  
志ヲ變ニテヒソカニ此企ヲ三郎信康  
ニ告ル是ニ依テ信康大賀彌四郎ヲ召



テ生捕ニメ給フ倉地平右衛門ハ隠謀  
露顯スル事ヲ察シテ戦ヒ死ニト進テ  
出ル岡崎ノ兵士等馳集テ是ヲ殺シテ  
其首ヲ濱松ニ獻ス小笠原右衛門ハ遠  
加ノ国ニメ服部半藏是ヲ擒ニセニト  
欲ス天龍川ヲ游キ涉テニ股ノ城ニ免  
レ夫ヨリ又甲加ニ走ル野心ハ本人大  
賀弥四郎ヲメ是ヲ搏リ旗ヲサシメ  
其罪ト彼レカ姓名ヲ是ニ書テ遠参兩  
国ヲ引渡シテ岡崎ノ町口ノ過ニ生ナ

カラ土中ニ埋テ竹鋸ヲ以テ是ヲ載シ  
ム七日ニシテ遂ニ死ス大賀カ妻其子  
四人ヲ捕テ参州念原ニ磔ニス  
一廿一日武田勝頼ニ万餘騎ノ兵ヲ寄  
テ参加長篠ノ城ヲ圍テ晝夜ナク攻ル  
事急也守將奥平九郎信昌援兵柘平  
外記伊高能ク拒キ守ル然レ氏城中ノ  
糧ヲ計ルニ僅ニ一月ノ食ニ過ス  
大神君信長ニ告ニト欲ス敵兵守堅ニ  
テ通シ難シテ告ル事ヲ得ス大神君



是ヲ援ケニト欲ニ給ヒテ小栗大六ヲ  
使トシテ信長ニ加勢ヲ請ニ又給事ニ  
度ニ及ヘリ信長出ル事ヲ許サス  
大神君小栗ヲ召テ曰ク吾信長ト互ニ  
援ケニト盟セシ故ニ江州箕佐ヨリ以  
来若狭陣姉川此方ヘハ加勢サセ今信  
長出馬ナクハ遠州ヲハ勝頼ニ其ヘ參  
州一國ヲ我領ニ勝頼ヲ旗本トシ吾働  
力ハ尾筋ヲハ一日ノ中ニ責取ニ此事  
白地ニ言事ナカレ聞知ルヤ少ニ申セ

ト命ニテ大六岐阜ヘ行テ加勢ノ出  
馬ヲ請フ信長出馬ヲ許サス爰ニ於テ  
小栗大神君ノ臆意ヲ矢部善七ニ語  
ル信長驚テ諾ス  
或記ニ云ク奥卒監物九八昌八加八父即也信小栗  
大六ト氏ニ大神君ノ使ニ岐阜ヘ  
行ト也  
五月小  
一朔日勝頼ニ股ヨリ山郡吉田通り内  
金村ノ陣ニ附キ鎧ヲ着ニ長篠ノ城ヲ



攻ム醫王寺山ニ陣ス惣軍ハ大通寺山  
其外所ニ陣ス長篠ノ南方ニ巢ニ  
附キ城ヲ搆ヘ武田兵庫信實大将ト之  
テ浪人組其外ニ十餘人ヲ差添陣取ル  
長篠ニ八奥平九八郎信昌城ヲ守ルト祐  
平彌九郎景忠祐平ト七家嗣鷲殿八郎  
三郎松平弥二郎加勢ト之テ指シ龜ル定  
盈力一家菅沼助十郎勝重ハ後次太夫  
名在奥平久兵衛貞光力督也信昌ト近  
干縁者ナル故ニ定盈ヲ頼ニ長篠ノ城

ニ入ニト欲ス定盈家臣黒屋氏ヲ指添  
勝重ヲ長篠ノ城ニ送ル信昌感悦シテ  
力一腰ヲ黒屋ニ贈ルト  
一六日勝頼兵ヲ分ケテ火ヲ二連木牛  
久保ニ放テ吉田ニ至ラト欲ス  
大神君以為シ被レ力至ルヲ待テ相戦  
ニト吉田口ニ屯シ給フ信康ハ山中法  
藏寺ニ陣ス勝頼壹万余騎ヲ率テ小山  
ニ登テ屯ス于ニ貳ノ大神君ノ兵寡也彼レ力衆  
不過衆人ハ大神君ノ兵寡也彼レ力衆



ト相戦ハ、危カラニ退テ吉田町ニ入  
ラニニハ、大神君從セ給フ酒井左衛  
門尉殿タリ勝頼前鋒山縣三郎兵衛五  
隊ノ長ノ師ノ跡ヲ躡ミ来ル酒井止テ  
山縣ト戦ヒ山縣カ兵廣瀬郷左衛門ト  
戸田左門鎭ヲ合ス次ニ山縣カ兵三科  
肥前ト大津土左衛門争ヒ戦フ孕石源  
右衛門小菅五郎兵衛三科ヲ援ケニカ  
為ニ来テ鎭ヲ合ス日ノ暮ニ及テ勝負  
決セス

一七日 廣瀬郷左衛門吉田町ニ酒  
井左衛門尉手ト相戦フ事三度互ニ言  
葉ヲ以テ證據トスル事二度小菅孕石  
曲淵過弥兵衛和介長坂十左衛門廣瀬  
ヲ放シトテ各自ヲ姓名ヲ呼テ進ミ来  
ル水野惣兵衛戸田左門渡邊半藏等ノ  
勇士三十余人出向フ酒井忠次山縣三  
郎兵衛ト詞ヲ合セ戦フ勝頼兵敗走ス  
此敗廣瀬馬ニ乘テ馳来リ大ニ戦フ見  
及廣瀬カ武功ヲ褒ム



一十一日 勝瀬カ兵長篠ノ城渡合ノ南  
門ニ寄来リ竹束ヲ付乘取ニトス信昌  
是ヲ防キ城中ヨリ突テ出大ニ戦ヲ寄  
手敗北ス  
一十二日 敵兵本丸ノ西ノ隅ニ攻ヨセ  
金堀ヲ數入入テ土居ヲ堀崩ニ攻入ニ  
トス信昌是ヲ知テ敵ヨリ堀入ル所ヲ  
考ヘ城内ヨリ地中ヲ堀鉄炮ヲ放ツ敵  
大ニ驚テ敗ス  
或記ニ云ク城中ノ士今泉内記後藤

助左衛門扶間ヨリノソキテ外ヲ見  
テ鉄炮ニ中テ死ス助左衛門ハ正氣  
一十三日 大神君奥平美佐守石川伯耆  
守ヲ使トシテ長篠ヲ後援ヲ乞信長父  
子岐準ヲ發ス此夜敵瓢丸ハ攻寄セ乘  
取ニトス此丸ハ山澤ニテ土居モナク  
少ノ擡揚ニテ不堅固也信昌兼テ勇士  
數多籠置又敵果ニテ進ニ来ル音ヲ静  
メ伺迄夕引受月陰ニ鉄炮ノ放ツ寄手



討ル者多シ敵是ヲ事トモセヌ堀際  
ニ付引破ラントス城兵強ク防ケ氏不  
叶シテ終ニ引破ラル信昌後明ハ味方  
本城へ入難カラント思ヒ其夜半ニ兵  
ヲ本城へ引入ル同夜敵追手ノ行際ニ  
井接ヲ上城内ヲ伺ヒ見ントス信昌此  
事ヲ察シテ其上ルヲ待テ大筒ニテ打  
崩ス此賊大神君ノ命ニ依テ松平太  
郎左衛門援兵トシテ長篠ニ籠ル敵兵  
堀摺ヲ崩シテ攻ルト云へ氏景忠士卒

ヲ下知シテ或ハ門戸ヲ閉テ是ヲ防キ  
或ハ門ヲ開テ戦フ敵利ナクニテ長篠  
ノ城ヲ落サス大神君景忠カ功ヲ賞  
シ給フ  
一十四日敵惣勢ヲ以テ攻詰城ヲ乘取  
ニトス城兵鉄炮ヲ放テ防キ守ル寄手  
手負死入數ヲ知ラス武田勢攻アクニ  
テ引退キ遠巻ニテ居レリ城中ノ糧四  
五日ノ貯ニ不遇守兵飢渴ニ近ニ奥平  
次左衛門水練ノ達者タルニ依テ



大神君へ使ニ遣サニト信昌云ニヲ次  
左衛門カ云ク我城ヲ出給ニテ若ク落  
城セハ末代ニテノ恥辱ノ由ヲ云ニ依  
テ諸士一同ニ云ヘルハ大兵ヲ受テ後  
誥延引セハ運ヲ南キ難ニ城ノ門ヲ南  
キ突テ出快ク討死セニ信昌曰ク我一  
友切腹ニ諸卒ヲ助ケニ其取鳥居強右  
衛門進ニ出テ信昌ニ云テ曰ク吾潛ニ  
城ヲ出テ急難ヲ信長ニ告ニ信昌大ニ  
悦ニテ曰ク往テ語ラハ城モ全ク矢玉

モ多ク唯糧ノ乏ニ苦ム敵急ニ来ラハ  
信昌自殺ニテ士卒ノ死ヲ免レニ強右  
衛門カ曰ク此夜圍ヲ出ル事ヲ得ハ火  
一ヲ前ノ山ニ攀ニ  
一十五日未明ニ強右衛門約束ノ如ク  
火ヲ前ノ山ニ上ク城中是ヲ見テ大ニ  
歡フ晚景ニ鳥居岡崎ニ至ル信長此夜  
岡崎ニ来ルト云事ヲ南ク酉ノ刻ニ信  
長果ニテ至ル鳥居信長ニ詳ニ長篠ノ  
事ヲ告ク信長援兵ノ事ヲ許誥ス信長



鳥居ヲ勞メ曰ク汝信昌カ為ニ死ヲ輕  
ニテ敵ノ圍ヲ出テ此ニ来ル其忠莫太  
也鳥居ヲ留メテ書ヲ以テ信昌ニ報セ  
ニト欲ス鳥居辭ニテ曰ク吾長篠ニ飯  
ル事ヲ以テ信昌ニ告城兵ノ心ヲ安セ  
一ニト欲ス  
一此日 信長牛久保ニ至ル軍勢追々馳  
セ加テ丸ノ五万餘騎ニ及フ  
一十六日 夜半鳥居長篠ノ城ニ帰リ武  
田カ陣ヲ搦テ破テ城中ニ入ニト欲ス

レ氏搦テ鹿垣トノ間十間計ニ白砂ヲ  
敷テ人跡アレハ是ヲ改ム鳥居城ニ入  
事ヲ得ス勝頼カ士洞原孫太郎怪ニ鳥  
居ヲ引テ勝頼カ前ニ至ル道遙軒密ニ  
鳥居ニ語テ曰ク汝我言葉ヲ如クセハ  
命ヲ助クルヲミナラス汝カ欲スル地  
ヲ興ヘン汝城下ニ至テ親キ多ヲ呼出  
ニ信長来リ援フ事ヲ許サズ卒ク降レ  
トイヘハ鳥居信昌ニ計大神君信長ノ  
来リ援ヒ給フヲ知セニトテ件ヲ諾ス



十餘多ヲ鳥居ニ從テ柵ノ下ニ至ラニ  
ム鳥居大ニ呼テ曰ク信長已ニ岡崎ニ  
至リ城之助ハ幡ニ陣ス前鋒ハ宮水野  
ニ陣ス大神君信康ハ野田ニ移リ給  
フ天運尙ク事三日ヲ過クヘカラス  
堅ク城ヲ守ルヘキノ旨ヲ告ル城兵是  
ヲ聞テ大ニ悦フ勝頼怒テ鳥居ヲ磔ニ  
ス其後武田方ヨリ貞能ノ手跡ヲ似セ  
謀書ヲ認メ矢ヲ以テ城内ヘ射込其状  
ニ信長所見ノ一揆ニ取合セ此地ノ加

勢成リ力タニ城ヲ早ク渡ニ逃去ルヘ  
之ヲ書リ城内ノ軍士見疑フ于取真卒  
六兵衛力曰ク是謀書ニ疑ヒナニ敵ノ  
謀計拙ト大ニ笑フ是ニ依テ城兵堅固  
ニ守ル  
一馬場美濃守内藤修理亮山縣三郎兵衛  
小山田兵衛尉源隼人正等勝頼ニ謁シ  
テ曰ク信長大神君十萬ノ兵ヲ率テ  
來ル我是ト戦ハハ必不利アルヘカラ  
ス兩將至ラサルサキニ圍ヲ解テ飯ヲ



ニ然ラスハ急ニ城ヲ攻ニ急ニ攻ハ兵  
多ク死ト云ヘ凡城ヲ拔ニ事必セリ其  
勢ニテ甲州ニ飯ヲ長坂長岡部大  
炊助カ曰ク兩將兵ヲ引テ来ルハ吾カ  
一幸ナリ一戦ニテ雌雄ヲ決セニ勝頼是  
ヲ然トス皆口ヲ閉テ再ヒ言ハス各以  
為ク余ヲ武田ノ家ニ殞ニ尸ヲ戰場ノ  
座ニ委子ニ  
一十七日 信長野田ニ至ル此取菅沼新  
八郎定盈カ根古屋古城ヲ一覽ニテ定

盈ヲ呼テ曰ク此ノ如ク要害モ一ハラ  
ナル小城ニテ去ク年信玄ヲ引受テ籠  
城ニ久ク持味ヘタリト賞義アリ  
一十八日 信長進テ設樂ノ郷極樂寺山  
ニ陣ス信忠御堂山ニ屯ス大神君ハ  
八劔高杉山ニ陣ニ給フ木下藤吉郎秀  
吉瀧川左近將監一益丹羽五郎左衛門  
長秀等荒海原ニ陣ニ別ニ備フ以上下  
三段皆山上ニ陣ニテ敵ノ至ルヲ待ツ  
示取鈴木金七郎一書ヲ以テ城中ヨリ



来テ曰ク勝頼急ニ城ヲ攻メハ鐘ヲ鳴  
ニテ告ニ城猶堅ク守ラニ急ニ救ハ  
トテ俄ニ敗ヲ取ルコトナカレ大神  
君鈴木ニ向給フハ何トニテ出ニヤ吾  
テ曰ク夜竊ニ城ヲ出テ堀ノ内鳴子ヲ  
張為ヲ我短刀ヲ以テ剪リ水ヲ通り来  
ルハ大神君大ニ悦ビ吾ヲ鈴木信長ニ  
謁ス信長是ヲ稱羨ス信長曰ク木下藤  
吉丹羽勘助不破河内徳山五兵衛四手  
軍事皆勘助ニ從フハニ勝頼兵ヲ分テ

長篠ノ城ノ拒キトニテ小山田備中守  
春日涼五郎等室賀入道ニ千余騎ヲ立  
テ守ラニム鷹ノ巣ノ城ハ武田兵庫頭  
信實三枝勘解由左衛門守友甚外諸牢  
人名和無理之助重行五味共三兵衛貞  
成飲尾彌四右衛門助友等ヲ隊長トシ  
テ是ニ加ヘニ人兵二千餘騎ヲ立テ城  
ヲ守ラニム  
一廿日信長ヨリ昨夜遣ニ恐テ者飯テ  
曰武田方ノ小屋取其外佗法堅キヨ



ヲ云フ又書ヲ遣ニ物見ノ及ニモ歸テ  
敵方ノ形勢嚴重ヲ云ニ申ニ依テ信  
長ノ兵卒氣色宜ニカラス申ノ上刻諸  
將ヲ信長ノ本陣へ集ム大神君モ御  
同座也酒井左衛門尉忠次供奉ニテ了  
リニテ信長呼出ニテ敵ノ形勢ヲ尋  
ル忠次力曰ク昨日ヨリ恐テ遣ニ今日  
モ物見ヲ以敵方ヲ見切ルニ武田方小  
勢也合戦勝理疑ナニ此敗信長殊々外  
ニ悦テ臆病者ノ眼ニハ鷲ヲモ旗下見

ル所アリ海道一番ノ武邊者左衛門尉  
敵ヲ見切ル事ナレハ明白ハ大利ヲ得  
テ付入ニ甲斐信濃へ乱入り其競ニ候  
東奥劬迄攻入テ何モ国至ニ力サラニ  
ト孟ヲ忠次ニサス忠次孟ヲ信長ヲ指  
圖ニテ城之助へサス其上ニテ内々聞  
及タリト夷舞ヲ望ム忠次夷舞ヲス諸  
人籠ヲ打テ囃ス舞終テ信長合戦ヲ備  
定メアツテ諸將ニ存分ヲ尋又諸將一  
言モ出サレニ忠次進ニ出テ曰ク此合



戦ハ 大神君身ニ掛リタニ事ナシ  
推参ヲ顧ス存念ヲ申上ニ今夜中入敷  
ヲ廻シ勝頼本陣驚ノ象ノ後ヨリ攻上  
リ火ノ手ヲ揚ニ相國攻芽谷戦ヲ始メ  
勝理タラニ 大神君ニ右  
或記ニ左衛門尉竊ニ道大神君ニ右  
東ノ計略ヲ達シテ其出ニ信長ニ達ス  
ヘキ旨命アルニ依テ信長ニ告シム  
信長大ニ怒テ汝力如キ大虚氣  
大神君家老ニ之給又ト悪口ニテ座

又諸大名退出ス 大神君モ歸  
リ給フ于取信長忠次ヲ呼返シ中直  
リセニトテ孟ヲサニ手ツカテ長蛇  
ヲ賜リ倒ヘ呼テ汝力謀尨モ善ニ此  
計畧他聞ニ漏ル事ヲ恐テ我偽テ汝  
ヲ怒リ忠次是ヲ聞テ悦ヒ檢使ヲ請  
フ信長諾シテ青木新七加藤市左衛  
門金森五郎八佐藤六左衛門ヲ以テ  
是ニ副フ 大神君ニ  
大神君ノ命ヲ奉テ柁平主殿助家忠其



子又八郎 柘平備後守清原 本多豐後守  
廣孝其子彦次郎 柘平左近將監忠次牧  
野新次郎康成後馬 右菅沼新八郎定盈  
後織部 柘平号 玄蕃允清宗西郷孫九郎  
家貞等酒井忠次二加儿其兵合元三千  
餘騎御旗本ヨリ檢使トシテ阿部四郎  
兵衛ヲ副テル設樂越中守貞通 大棟  
君ノ命ニ依テ河路ヨリ直ニ樋田伊原  
陣場ニ所ヲ奔ニ當テ敵軍ノ巢ヨリ落  
來ヲ待テ是ヲ討ニトシテ諸軍ハ河路ト

監澤トシテ向廣瀬ノ川ヲ涉ル案内ニ  
ニ依テ菅沼新八郎先陣ニ進ム諸吉川  
ニ至テ軍評定ヲナス忠次潛ニ菅沼ヲ  
招テ軍談ニテ吉川村ニ往人豊甲藤助  
吉秀近藤石見守庸用ニ案内ヲセシメ  
ハ忠次諸卒ニ向テ云ク松山越險難也  
夜中通路危ニ繩ヲ張テ大木ヲ縛テ符  
ニスヘシト下知ス惣軍夜ヲ侵シテ難  
ナク所へ押上リ菅沼山へ懸リ井房推  
ニテ勢揃ニテ曉天ニ驚ノ巢山ニ至ル



一廿一日 勝頼一萬余騎ノ兵ヲ卒ニテ  
瀧澤川ヲ涉テ二十餘町出張ニ陣ヲ分  
ツ事十三隊トシテ大神君及ヒ信長  
ノ陣ニ向フ大神君本多忠勝ヲ軍奉  
行トシテ少フ信長令ヲ出シテ曰ク甲州  
ノ兵ハ常ニ前後ノ勝敗ヲ顧ム柵ヲ諸  
軍ノ毒ニ構ヘシ忠勝鉄炮ノ士卒ヲ揮  
テ柵際ニ居テ曰ク敵ハ近ク来ルヲ待  
放テ信長力陣瀧川左近一益木下藤吉  
郎秀吉丹羽五郎左衛門長秀ヲ先隊ト

ス甲劬ノ兵ハ馬上ノ達者タルニ依テ  
柵ヲ結事三重鉄炮三千挺ヲ揮ニ集テ  
佐々内藏助成政前田又左衛門利家福  
富平左衛門塙九郎左衛門野々村三十  
郎等ヲ以テ隊長トシテ敵馬ヲ馳テ味  
方ノ陣ニ驅入ニト欲セハ鉄炮三千挺  
ニテ交シテ千挺ヲ以テ是ヲ放クハ之ト  
其令ヲ定ム信長冑ヲ河尻其兵衛ニ賜  
リ河尻ヲ達テ信忠ノ帷中ニ至テ曰ク  
敵進ニ来ルト云氏輕ニ敷戦ヲ事ナ力



レ事必ス河尻力言ニ從ハテ大神君ノ  
陣ニハ石川伯耆守康昌大久保七郎右  
衛門忠世同次右衛門本多平八郎鳥居  
彦右衛門内藤三左衛門等相談ニテ  
ハ信長ハ援兵ナリ當手ヨリ合戦ヲ始  
ムト定ム信長前隊ニ至リ大神君  
ト議ニテ約スル所鉄炮ノ兵ニテ  
及レ佐々内藏助前田又左衛門福富平  
左衛門塙九郎左衛門内野三村三平五  
人ヲ遣ニ五人ニ命ニテ曰ク敵来ル氏

渡合ヒ鉄炮ヲ放ツ事勿ク近ク来ルヲ  
待テ發スルニ平挺ヲ以テニ代ルニ又  
平挺以セヨ一賊ニ發スル事勿ク敵進  
ムハ退キ五子命ヲ奉ニテ進出テ柵  
ヲ相忝ル事十町計ニ大神君ノ前隊大  
久保七郎右衛門同次右衛門鉄炮ノ兵  
三百人ヲ卒ニテ柵ヲ相忝ル事是モ又  
十町計ニテ敵ノ至ルヲ待ツ  
一大神君及レ信長ノ軍勢勝頼力陣ニ備  
テ不ク又戦サルヲ處ニ武田力陣ヨリ



并候ト之テ軍士三騎馳出ル大神君  
ノ兵内藤甚五左衛門同弥次右衛門長  
弓ヲ以テ是ヲ射ル其間遠ニテ中ラズ  
然ト云ヘ氏敵此弓勢ニ恐レテ北ケ力  
ル信長使テ馳テ其勇力ヲ感ズ大久  
保七郎右衛門先鋒ニテ手勢皆歩立ニ  
テ鉄炮ヲ押立テ敵ノ来ルヲ待テリ信  
長ノ陣所ニ合戦初ルハキ斃ニ見ヘク  
レハ大久保此由ヲ大神君ニ言上ス  
鉄炮ヲ残ラズ初手ニ付テ騎馬ヲ一騎

モ出ス事勿レト成瀬吉左衛門相下部  
兵右衛門兩人ヲ以テ命セテ退此取柴  
田七九郎右河三左衛門ヲ鉄炮汰將ト  
ス  
一成瀬吉左衛門正一少先年故有テ三州  
ヲ退キ甲州ニ往テ信云ニ属スル事年  
アリ其后再ト三州ニ飯参メ大神君  
ニ奉仕ス是ニ依テ成瀬武田家ノ部將  
及ヒ旗差物是ヲ分明ニ見知ル然ルニ  
依テ今度ノ軍ニ成瀬ヲ使番トシテ先



鋒ニ加ヘシメ給フ大久保吉幸ヲ指揮  
シテ武田力陣ニ次炮ヲ放サシム勝頼  
ノ先鋒山縣三郎兵衛大鼓ヲ打テ進  
来ル大神君ノ鉄炮シ兵是ヲ見テ繰  
討ニ放ス敵綴ヲ傾ケ馬ヲ馳セ来ラ  
トス鉄炮ノ兵敵ノ近クヲ待テ鉄炮  
放シ敵三千餘騎ヲ中テ死スル者過  
半敵退カス大久保忠世同次右衛門渡  
邊半藏等各姓名ヲ呼シテ山縣力備  
突カ、ル敵兵廣瀬郷左衛門三科傳右

衛門小菅五郎兵衛等力戦シテ勇ヲ振  
ヒ柵ノ中へ進入或ハ追出シ追合九度  
ニ及ヘリ三科小菅疵ヲ蒙テ退久佐久  
間右衛門尉信長ノ命ニ依テ五千余人  
ヲ卒シテ柵ヨリ外ニ備フ武田方馬場  
義濃守七百余人佐久間ト戦フ柵ノ内  
ニ進入ル是ニ於テ鉄炮千余挺一同ニ  
放シ瀧川左近三千余人馬場力備ニ向  
フ武田方内藤修理亮千餘人ニテ横合  
ニ瀧川ヲ切崩ス木下藤吉丹羽長秀三



千余人内藤力備ニ突カ、ル山縣又横  
合ニ馳テ木下丹羽ヲ切崩ス又鉄炮千  
挺ヲ放テ大神君備ニテ鉄炮三百  
余挺ヲ放ツ山縣力備大ニ死ス山縣猶  
屈セス兵ヲ調大神君ノ旗本ヲ目掛  
テ横ニ驅ラントス武田道遙軒等是ニ  
續ク信長下知シテ又輕卒ヲシテ横ニ  
是ヲ射サシム此敗山縣力鞍ノ前輪ニ  
鉄炮中ツテ死ス士卒騒動シテ退去  
ル山縣力志村某山縣力首ヲ揚テ果

刃ニ飯ル武田道遙軒進ニ来ル大神  
君ノ兵頻ニ鉄炮ヲ發ス彼レ申テ事  
ヲ恐レテ退カント欲ス然レ氏又若ク  
邊ニ出ツ信長五人ノ部將代テ三條挺  
ノ鉄炮ヲ發ス敵支子ノ事不叶奈陣亡  
飯ル次ニ原隼人佐小幡上野次  
大神君ノ臣石川伯耆守ト馳合ハ大久  
保忠世内藤三左衛門敵ヲ謀テ間近ニ  
引寄セ鉄炮ヲ溝ノ陰ニ伏置一同ニ放  
サシム敵敗北ス武田左馬助小山田兵



衛尉大鼓ヲ打テ進ニ来ル小幡ニ替ル  
木下佐久向瀧川兵ヲ合テ相戦ヲ武田  
兵利ヲ失フ馬場備ヲ立直ニ采拜取テ  
攻掛ル殆部大炊助是ニ續少瀧川左近  
佐久向右衛門輕率ヲ指揮ニテ三千挺  
ノ火炮ヲ放ツ事急也于貳馬場備ヲ折  
敷テ透アル公頻ニ進ニ終ニテ柵ヲ  
押破リ大神君ノ御陣ヨリ闕ヲ發ニ  
テ攻撃以馬場是ニ擬議セ又勇ニ進ム  
于貳大神君ノ臣石川伯耆守本多系

八郎鳥居彦右衛門大久保七郎右衛門  
平岩七之助等勇ヲ震ニ術ヲ盡ニテ方  
戦ス馬場力軍勢是ニ辟易ニテ進ニス  
後陣乱レテ敗セニトス真田源太左衛  
門同兵部少輔土屋右衛門馬場ニ入替  
テ挑戦ヲ真田兄弟信長ノ陣三人柵ヲ  
手ツカラ破テ攻入前田又左衛門福富  
平左衛門下知之テ鉄炮ヲ放以爰ニ於  
テ兄弟討死ス信綱首ヲ渡邊半十郎得  
タリ土屋右衛門柵ヲ破テ進ニ入テ勇



ヲ震フ信玄死スル辰土屋自殺セシト  
スルヲ高板彈正強テ止ム今自姓名ヲ  
呼テ戦死ス年三十一馬場義濃守七百  
餘騎戦死シテ残兵僅八十餘騎武田力  
兵武田ハ疵ヲ蒙リ或ハ戦死ス残兵少  
ナシ馬場ハ疵ヲモ蒙ラズ猶一戦ヲ決  
セシトス此辰佐々内藏助勝頼ノ旗本  
勤ヲ見テ敵敗レノ色アリ軍勢ヲ進メ  
テ急ニ攻メト信長ニ請フ湯淺甚助ヲ  
使ニテ瀧川一益木下秀吉ヲ先鋒ニ加

一 大神君及ヒ信長兩將ノ兵ヲ并テ  
一同ニ関ノ敵ヲ發ス即チ勝頼カ旗本  
ニ切掛ル武田方原隼人正小幡上総路  
部大炊介小山田兵衛尉安中左近望月  
甚八郎等挑戦フ隻軍ノ敵天ヲ響ク地  
ヲ勤ス兩將ノ大軍競懸テ攻討武田勢  
敗北ス此辰鳥居彦右衛門家士望月  
討捕ル長坂路部馬ニ鞭テ逃レ走ル馬  
場辱テ曰クニ子ハ初曰リ戦ヲ好ム我  
ハ戦ヲ止シト云然共此場ニ退クハ力



ラズ敵ノ為ニ死ナシ長坂部聞サレ  
フリシテ猶退ク馬場猶疵ヲ蒙ラズ勝  
頼敗北シテ廿余町落延又土屋惣散初  
鹿傳右衛門唯ニ騎從ノ馬場ハ人数僅  
ニナリ勝頼大文字ノ旗人見テ此程ハ  
敵ヲ會釋シ猿カ橋ノ北ノ方ヨリ取テ  
返シ高キ所ニ登テ大ニ呼ソテ曰ク吾  
ハ馬場義濃守也汝等何ソ吾首ヲ捕テ  
高名ニセヨト云是ヲ見テ四五人鑿ヲ  
以テ突シニカニ手ヲ掛クテ討レ又

年六十二塙九郎左衛門力從卒河井三  
十郎馬場力首ヲ得タリ今川氏真力軍  
士朝比奈弥太郎内藤修理亮力首ヲ得  
ル  
或記ニ曰ク勝頼落定ノ辰馬勞レテ  
進ニサリシヲ笠井肥後守馳来テ我  
力馬ニ勝頼ヲ乗セ肥後守ハ一町計  
取テ返シ討死ス







是ハ萬物ナルニ依テ棄タリテ新化  
ノ指物ヲ捧テ示ス忠勝家人梶金平突  
テ曰ク馬場山縣ハ甲府ノ老將也是又  
舊ニ依テ棄タリヤ敵不答兵ノ後ヨリ  
来ルヲ見テ敵ノ追フ力ナク疑ヒ疾走シ  
小橋ヲ渡リ水ニ溺ルテ死スル者算ナ  
ク遁ル故ル者僅ニ二并ニ過スルハ  
一此戦ノ間ニ敵ニ人大柵ノ木ノ陰ニ  
リ大神君忠勝家ハ多門傳十郎蜂須  
賀彦助ニ命ニテ是ヲ追拂ト二人命ヲ

奉テ其一入ヲ殺ス彦助ハ討死傳十郎  
ハ疵ヲ蒙ル此戰場ニテ久世三四郎坂  
郎三十郎杉浦八郎五郎同烈ニテ戦功  
ヲ顯ス是ニ依テ大神君ヨリ平安城  
長吉ノ鎧ヲ賜フ  
一武田勢稠ニク鉄炮ヲ打掛テ敵味方百  
騎計ニテ鎗ヲ合ス此時鷹見新八郎矢  
ヲ以テ敵四騎ヲ討落ス丹羽四郎左衛  
門首級ニツ得タリ  
一嵩田治兵衛加藤善左衛門神谷豊次右



衛門高名ス是ニ依テ采地五十貫ヲ給  
ノ  
一落沼藤藏高名ス大神君ノ命ニテ每  
度先備ニ相誥ム  
一長篠ノ戦今朝卯ノ刻ニ始テ未ク刻ニ  
終ル大神君及ヒ信長兩将ノ兵士等  
看ヲ得ル事凡一万余級其中武田力精  
兵山縣三郎兵衛馬場義濃守横田備中  
守内藤修理亮土屋右衛門尉横田十郎  
兵衛真田源太左衛門尉真田兵部少輔

甘利藤藏原隼人正安中左近太夫望月  
甚八郎城伊庵小幡又兵衛奥津十郎兵  
衛等ナリ奥津十郎兵衛ハ大神君ノ  
兵高力共左衛門正長是ヲ討ソ多田泠  
路守力子多田三八郎ハ大神君ノ陣  
ニ擒ニス多田兵隙ヲ伺テ脱レ去ント  
欲ス是ヲ追討テ遂ニ殺ス信長兵ヲ収  
ルニ及テ大神君ニ謂テ曰ク大神  
君ノ力ニ非スニハ何ソ如此勝ニヤ  
大神君辭テ曰ク信長ノ兵力ヲ盡力



故也

一織田信長長篠ノ城ニ入テ城全奥卒九  
八郎信昌ヲ招テ龜城ノ拒守ヲ感稱シ  
其臣數人戦功ヲ褒ス亦信長西尾小左  
衛門ヲ信昌力勇敢ヲ羨稱ス 大裨君  
信昌及ヒ其一族七人奥卒久兵衛同修  
理同但馬同周防同次左衛門同典兵衛  
同土佐家臣山崎善兵衛生田四郎兵衛  
兵藤新左衛門黒屋甚右衛門復目五郎  
左衛門ヲ召テ各軍功ヲ賞美シ給フ信

一長 大神君ノ臣酒井左衛門尉忠次ヲ

招テ鷹ノ巢ノ戦功ヲ賞シテ薙刀ヲ授

少<sup>了</sup>年有<sup>ル</sup>テ後此<sup>大</sup>長<sup>神</sup>刀<sup>ヲ</sup>君<sup>忠</sup>次<sup>カ</sup>宅<sup>二</sup>神<sup>渡</sup>御

献<sup>ス</sup>今度長篠ノ軍ニ討取所ノ武田力兵

士ノ首地ヲ掘テ是ヲ埋メ其上ニ塚ヲ

築テ信玄塚ト號ス<sup>今</sup>年<sup>ニ</sup>至<sup>ル</sup>テ<sup>信</sup>玄<sup>ヲ</sup>率

斯<sup>二</sup>名<sup>ク</sup> 一其後作手段嶺鳳来寺岩小屋等ノ城ニ

武田勢楯蓋ル者氏一命ヲ助カリ城ヲ

明ク渡ス 大神君信昌ヲ之テ兵ヲ遣

一其後作手段嶺鳳来寺岩小屋等ノ城ニ



云請取り守ラシム此度九八郎忠功ノ  
恩賞トシテ乍手段嶺長篠領吉良田原  
ノ内遠州形部吉比新庄山梨高邊領知  
ヲ賜リ又大般若長光ノ刀ヲ賜フ是ハ  
姉川合戦ノ取信長ヨリ大神君へ送  
リシ吉例トノ命アリ信長ヨリ西尾小  
左衛門ヲ使トシテ大神君ノ姫君此  
度九八郎へ御輿ヲ入候へトノ事ニテ  
婚禮調ノ事  
一廿五日信長大神君ニ面シテ曰ク

長篠ノ戦ニ大ニ勝テ武田カ瓜牙ノ臣  
等悉ク死ヒ大此弊ニ乘シテ甲州及ヒ  
信劬ニ攻入ニ於テハ武田カ一族ヲ悉  
ク追討テ甲信兩國ヲ得ニ事掌ヲ指カ  
如ク然リト云へ氏吾兵苦戦シテ疲労  
ス暫ク人馬ノ勞ヲ休メ其戦功ヲ賞シ  
テ後吾軍ヲ濃州岩村ニ出シ秋山伯耆  
守ヲ誅伐シテ甲信ニ攻入ルヘシ  
大神君ハ遠參兩國ヨリ兵ヲ發シテ甲  
信ニ進發アルヘキノ旨ヲ議シテ信長



兵ヲ収テ岐阜ニ歸ル大神君全勝ヲ  
賀セニ為ニ岐阜ニ行ク信長礼甚々厚  
ニテ小姓ノ士ヲ召テ各祿ヲ賜テ向テ  
曰ク長篠ノ役ニ功ヲナス彼鬚男来ル  
ヤ大久保次右衛門出テ答テ曰ク汝兄  
弟長篠ノ功衆ニ勝レリトキツカテ衣  
服ヲ取テ是ニ賜フ信長大神君ニ語  
テ曰ク今吾利ヲ得勝頼甲州ヲ出ル事  
ナラニ大神君駿劬ヲ征伐ニテ保テ  
若ク大神君ノ兵ヲ以テ征スル事能

ハ天ハ吾兵ヲ發シテ加ニ大神君大  
ニ喜テ濱裕ニ飯ル  
六月小

一二日大神君軍ヲ駿劬由井藏澤ニ出  
ニ給ニ遠州ニ殿ニ御進發アリ昆沙門  
堂鳥羽山和田ノ嶋琴原ニ砦ヲ構ヘニ  
股ニ備テニ股ノ城ヲ攻給フ城主依田  
下野守信守一説衛門尉幸致同右衛門佐信  
蕃信守也出張ニテ小川ヲ隔テ戦フ此取  
味方ノ魁兵内藤彌次右衛門弓ヲ以テ



敵ヲ防ク敵コラヘス廓外ニ火ヲ放テ  
城中ニ敗レ入ル事ニ疵ヲ蒙ルノ城兵  
一人ヲ助テ城ニ引入テト欲スル者  
アリ櫻井庄之助是ヲ城門ニ追詰終ニ  
敵ヲ討テ首級ヲ得タリ庄之助力指物  
根<sup>赤</sup>城門ニ掛リ留ルヲ櫻井ニ告ル再ヒ  
馳返テ是ヲ取ル大神君鳥羽山ニ御  
陣座アリ山ト城トノ間ニ川アリ本多  
忠勝兵ヲ進テ川端ニテ挑ニ戦フ櫻井  
力武勇ヲ見給フ櫻井討取ル所ノ首ヲ

以テ鳥羽山ニ來テ大神君ヲ台覽ニ  
入ル其功ヲ賞セテ遠丹神向村敷地  
村高木村ヲ櫻井ニ賜ル此戦ニ松下源  
五郎疵ヲ蒙ル  
一三日<sup>日</sup>仁服ノ城至依田信蕃能日内藤  
彌次右衛門力射ル所ヲ矢ヲ以テ  
大神君ノ臣石川日向守家成方陣ニ送  
ル其矢ニ札ヲ付テ大ニ是ヲ稱羨ス  
大神君内藤彌次右衛門力ヲ勢能日  
一軍功ヲ褒セテ御胴服ヲ賜ル



一 大神君猿樂ヲ召テ蜻原ニ於テ猿樂了  
リ兵卒ノ心ヲ和慰ニ給フ大久保七郎  
右衛門忠世ヲ之テ二股ノ城ヲ圍メ之  
又給ヒテ勝頼天野宮内朝比奈又太郎  
ヲ之テ光明ノ城ヲ守ラシム此城隘路  
一 十餘町有以テ其要嶮ニ大神君兵  
卒之示是ヲ攻メ給フ本多忠勝榊原康  
政先鋒ニ進ニ王門ニ攻登テ戦フ  
大神君陣ヲ横川ニ移シ鏡山向テ此城  
中ニ攻入ル城將朝比奈拒メ事ヲ得ス

遂ニ城ヲ避テ渡ス  
一 此月織田信忠正五位ニ叙ス  
一 此月二股ノ城主依田下野守病死ス子  
右衛門佐信蕃継テ立テ桑ヲ換テ堅ク  
城ヲ守ル大久保七郎右衛門蜻原於砦  
ニ在テ人ヲ遣ニ大神君ニ告テ曰ク  
二 股ニ喪アリ此弊ニ乘テ攻メ大  
君兵ヲ二股ニ殺ス大久保七郎右衛門  
榊原小卒太是ヲ圍ム依田急難ヲ甲州  
ニ告ク勝頼是ヲ保事能ハシト思ヒテ



一曰夕早夕城ヲ避ヨリ  
一廿日大神君共ヲ卒ニテ遠州諏訪原  
ノ城ヲ圍ニ給フ守將今福丹波守諸賀  
小泉守ヲ防キ戦フ鳥居彦右衛門此城  
ノ案内者トシテ先鋒ニ進ニ戦フ城中  
ヨリ火炮ヲ放シ鳥居力股ニ申ル後士  
一杉浦藤八郎鳥居ヲ扶テ退ク  
一鳥居家傳ニ云右ノ病ト  
一鳥居家傳ニ云右ノ病ト  
一鳥居家傳ニ云右ノ病ト  
一鳥居家傳ニ云右ノ病ト  
一鳥居家傳ニ云右ノ病ト

一此辰本多忠勝戦功アリ家士中根九右  
衛門討死ス  
一此月信忠濃州岩村ノ城攻メ敗奥卒父  
子參州武蔵ノ城ヲ攻取ル則其地ヲ賜  
ル  
一廿三日去月ヨリ此日ニ至テ諏訪原  
ノ城ヲ圍ニ攻ム諸賀小泉保シ事ヲ得  
ス力盡キ遂ニ諏訪原ノ城ヲ棄テ夜ニ



入潜二小山ノ城ニ退ク大神君命有  
テ曰ク諏訪原ノ城ハ高天神ノ通路ニ  
シテ田中ト大井川ヲ隔ル數里常ニ田  
中ノ兵ト屢戦ヒ止ム取不可有是ニ依  
テ此城ノ守ヲ諸將ニ向ヒ給フ答ル者  
ナリ于取柘平左近將監忠次進テ某ニ  
一此城ヲ守ルハキ旨ヲ達ス大神君大  
ニ御感悦有テ忠次ニ御諱ノ字ヲ賜テ  
一康親ト號ス左近ヲ改テ周防守ト云  
レ諏訪為ノ城名ヲ轉シテ牧野ト号ス

周ノ部ノ武王ノ殷ノ紂ノ名也ヲ野ノ名也  
親力武勇ヲ悦ヒ是ニ依テ舍テ遠州樽  
木河尻七百貫ノ地ヲ周防守康親ニ給  
ハル此城ヲ劇勢野其後牧野右馬  
允康成命ヲ蒙テ康親ト共ニ牧野ニ城  
ヲ警衛ス大神君累世凶部將等一人  
援兵トシテ交々牧野ノ城ニ来リ取テ  
康親ト共ニ城ヲ守ル  
一此月酒井左衛門尉忠次ニ及ヒ奥平九  
八郎信昌大神君ノ御使トシテ岐阜



二至ル信長二人ノ勇敢ヲ羨稱ニ自今  
以後九八郎力名ヲ呼テ武者之助ト云  
ヘニ于貶力字一文暑衣唐物胴服等ヲ信  
昌ニ授ク忠次ニ毛長刀革羽織ヲ賜フ  
大神君牧野及上北明ノ兩城陷ニ給ヒ  
テ後進テ小山ノ城ヲ攻討ニト諸將ヲ  
召テ是ヲ議ニ給フ于貶酒井左衛門尉  
忠次言テ云ク備ヲ設テ長陣セハ士卒  
疲ルヘニ願クハ軍ヲ收テ暫ク其勞ヲ  
休メ給ヘト諫メ奉ル出柘牟康親進テ

云ク小山ノ城ヲ攻ラレニハ是能計謀  
ナルヘニ其故ハ先日長祿ノ軍ニ武田  
力股肱ノ臣皆戦死ス勝頼獨リ武ニト  
云氏勇兵ナクニテ何ヲ以テ小山ノ城  
ヲ救ハニヤ一大神君是ヲ許ニ給ヒテ  
兵ヲ小山ニ發ニテ圍マニム石川伯耆  
守數正柘牟周防守康親先隊トニテ攻  
討ツ柘牟善四郎康忠先鋒ニ奮戦ス本  
多牟八郎忠勝士卒ヲ指揮ニテ戦力ハ  
ニム忠勝力後牟中村共三内山三郎小



野田兵市郎鎬ヲ合日置三藏弓ヲ以  
テ鎗脇ノ敵ヲ射ル小泉彌八松下七兵  
衛土屋甚助等戦死ス松平又八郎家忠  
後トニ生ス殿ス先鋒ニ進テ首級ヲ得タリ  
九月大  
一十五日武田勝頼ニ万餘騎ノ兵ヲ卒  
ニテ小山ノ城後援トシテ大井川ノ邊  
ニ屯ス  
一十七日勝頼陣ヲ大井川ノ邊ニ出張  
スルノ由甚告アリ大神君是ヲ聞給

ヒテ前ニ堅城アリ後ニ大敵アリ兵ヲ  
収テ退キ去ラニ是軍ノ謀ナリト諸卒  
ニ命ニテ小山ノ城ノ圍ミヲ解ニメ軍  
ヲ飯ス道ヲ議ル内藤四郎左衛門力云  
ク徑ニ山ヲ越テ退カニ富永孫太夫曰  
ク山ヲ越テ退カハ敵ヲ畏ルニ似タ  
リ川ニ添テ敵ニ向ヒ退カニ大神君  
是ニ從ヒ給ヒ兵ヲ引ノ序ヲ定ム石川  
伯耆守祐平玄蕃同兵一郎同主殿同源  
次郎鈴木越中同喜三郎酒井兵七郎西



郷孫九郎先卜云テ信康是二次少榊原  
小卒太本多卒八郎石川長門守本多豊  
後守大須賀五郎左衛門柴田七九郎久  
野三郎左衛門三宅宗右衛門是二次少  
大神君七是二次キ給フ水野宗兵衛鳥  
居秀右衛門大久保七郎右衛門本多佐  
左衛門同百助菅沼藤藏植村出羽守同  
庄右衛門是二從フ酒井左衛門尉松本  
甚太郎家忠同周防守同上野介本多彦  
八郎菅沼新八郎牧野右馬允等東參州

ノ兵是二次少駿劔ノ兵城ヲ出テ吾兵  
ノ路ヲ躡テ来ル于取酒井左衛門尉松  
本甚太郎家忠殿夕リ戸田左門大津土  
左衛門等幾度モ返ニ合テ敵ニ向フ高  
力其次郎日下部五郎八モ返ニ合テ首  
級ヲ得夕リ柘原彦九郎敵兵ノ朱挑燈  
ノ指物ヲ帶スル士ヲ吾士モ同差物ニ  
一見誤テ吾兵ト思フ軍中ニ入ル朝比  
奈彌兵衛是ヲ射殺ス内藤彌次右衛門  
返ニ合テ彌兵衛ノ射ル矢鞍ノ前輪ノ



奔後ヲ貫ク彌兵衛逃テ陣中ニ入ル身  
彌藏進ニ来ル彌次右衛門又是ヲ射ル  
彌藏矢ニ中ツテ退ク此取松平甚太郎  
戦功アリ吉川ト号ス天下第一駿馬  
ニ乗ル初メ信長是ヲ家忠ニ請フ然レ  
共多ク人馬ヲ食フ故又家忠ニ返ス此  
馬能ク至人ヲ知ル于取馳来テ前膝ヲ  
折テ家忠ヲ乗セ家忠次郎右衛門ヲ扶  
テ返ル  
一勝頼力兵大井川ニ出テ一二隊川ヲ涉

ル取大 大神君ノ兵伊良崎ノ岡ニ至ル  
敵ノ始テ後ニアルヲ云ル信康君  
大神君ニ謂テ曰ク此ニ至ル迄ハ敵ヲ  
前ス吾是力為ニ先是ヨリ敵ヲ後ニス  
吾先立ツヘカラス何為リ  
ニヤ 大神君曰ク汝年猶少ニ必ス先  
ヲ讓事ナカレ信康固ク辞ス 大神君  
遂ニ是力先タリ勝頼備ヲ設テ 大神  
君岡ヲ下リ給フヲ見テ一戦ヲ決セ  
ト 大神君伊良崎ヨリ徑ニ兵ヲ引テ





退ク敵跡ヲ躡事能ハス諸兵惘然下  
テ所ヲ知ラス勝頼追シテ高坂陣  
正是ヲ止ム  
一 大神君牧野ノ城ニ入り給フ  
一 十八日 勝頼兵ヲ率テ小山ノ城ニ  
入り堅ク城ヲ守ル功ヲ賞シ神原小  
兵衛鳥居久太夫朝倉六兵衛朝比奈金  
部忠次郎鈴木弥次右衛門等ニ書ヲ賜  
フテ褒ム 大神君進テ陣ヲ馬伏塚ニ

張リ給フ  
一 勝頼軍ヲ引テ甲州ニ皈ル是ニ依テ  
大神君濱松ニ御凱旋アリ  
一 其後 大神君田中へ御出馬アリ勝頼  
是ヲ聞テ後詰ニ出ツ大神君御思慮  
アツテ人数ヲ引取給フ御旗ハ大久保  
五郎右衛門ニ命ス大神君ノ御思慮  
ヲ知ラス合戦ナキヲ怒テ退口ヲ旗押  
様ハ學ハスト云ヲ大久保七郎右衛門  
五郎右衛門也 是ヲ制シテ曰ク某御旗ヲ推

門五  
後郎  
右衛  
也



サセニ早夕御馬ヲ返サレヨ酒井左衛  
門ハ人数ヲ二トフテ上道ヲ退レヨ御  
旗ヲ伊良崎へ懸テ推サニトテ引取ケ  
ルニ瀬戸ノ邊ニテ敵近クト幕七来ル  
ヲ大久保治右衛門内藤助左衛門算助  
太夫黒野五郎太夫都筑藤市佐橋甚兵  
衛内藤甚五左衛門等殿ニテ退夕治右  
衛門度々返ニ合戦ノ敵モ是ヲ褒夕リ  
大井川ノ端ニテ真先ニ進ム黒野五郎  
太夫鉄炮ヲ以テ打落ス是ニ恐テ敵進

ム事ヲ得サレ故ニ味方心安夕川ヲ渡  
ス右敵モ川へ乗入レ渡ルヲ治右衛門  
黒野ニ謂テ云ク我ヲ臺ニニテ打ハニ  
トテ川ノ端ニ俯ス是ヲ見テ敵川ヲ渡  
ラス引ヌ此取五郎太夫カ功ヲ賞ニテ  
御持ノ鉄炮ヲ賜フ濃加遠山ノ城ハ勝  
頼秋山伯耆守座光寺ヲ首將トニテ二  
千余騎ニテ是ヲ守ラニム織田信忠兵  
ヲ發ニテ攻討ツ城甚堅ク守テ是ヲ拒  
ク勝頼後援トニテ伊奈ニ至テ出張ス



ルト云ハ氏長篠ノ軍ニ瓜牙ノ部將等  
多ク戦死ス残兵ハ皆長篠ノ戦ニ利ヲ  
失ヒ織田ノ武威ニ恐レ進ム事ヲ得ス  
數日ヲ経ルノ向ニ遠山ノ城中既ニ糧  
盡キ困窮ス是ニ依テ城兵力盡テ遂ニ  
信忠ニ降テ遠山ノ城ヲ避ケ渡ス信忠  
遠山ノ城ヲ得テ城將秋山座光寺ヲ擒  
ニシテ岐阜ニ遣ス信長秋山ニ憤深ニ  
依テ彼レヲ磔ニス奥平九八郎信昌カ  
妻質トシテ甲州ニ在リ之ヲ勝頼是ヲ

磔ニス其仇ヲ報セニカ為且ツ秋山カ  
妻ハ信長伯母タリ岩村某死ニテ後嗣  
子ナキニ依テ信長末子御房丸ヲ以テ  
岩村カ養子トシテ其家ヲ継シム是ニ  
依テ御房丸遠山ノ城ニ在リ岩村カ後  
室秋山伯耆守ト嫁シテ御房丸ヲ甲州  
ニ遣シ信長ノ質トス故ニ信長是ヲ怒  
テ秋山カ妻ヲ殺ス遠山ノ城糧盡キ城  
兵飢ニ及ノ貳為方ナク財窟ヲ以テ叅  
州薊屋ノ城ニ賣テ糧ノ資用トス水野



下野守信元是ヲ買テ其價ヲ送ル佐久  
向右衛門尉信盛ハ信元ト不快也是ニ  
依テ佐久向水野ヲ信長ニ讒シテ曰ク  
遠山ノ城糧盡キ城兵困窮スルノ取水  
野信元志ヲ通シ葎屋ノ城ヨリ竊ニ糧  
ヲ遠山ノ城中ニ送テ城兵ヲ救メ由訴  
フ信長大ニ怒テ使ヲ葎屋ノ城ニ遣シ  
信元カ野心ノ實否ヲ弘ス信元驚テ其  
誤リナキヲ述テ信長ノ疑心ヲ散セシ  
カ為ニ信元臣一人ヲシテ信長ノ使ニ

副テ使シケル彼等途中ニテ酒宴沉  
醉シテ口論ニ及ヒ兩使共ニ戦ヒ死ス  
是ニ依テ信長彌水野カ逆意ニ定ム信  
元是ヲ怒テ岡崎ニ行ク信長大ニ怒リ  
人ヲ遣シテ岡崎ニ往シテ曰ク信元  
罪窮レリ速ニ殺セ與大神君先ツ大樹  
寺ニ居給フ  
一此月信長入洛シテ權大納言ニ任ス右  
近衛大將ヲ兼ヌ

十二月大



一廿三日 二股ノ城主依田信蕃後援ノ  
兵ナキ故大久保忠世ヲ頼テ和ヲ乞ニ  
服ノ城ヲ去テ甲州ニ皈ル于取身兩人  
善九郎源八郎ヲ質ニ獻ス且ツ 大神  
君ヨリ質ヲ信蕃ニ與フ彼質ヲニ股川  
ニ之テ互ニ返サシム信蕃高天神ニ退  
ク 大神君大久保忠世阿倍四郎五郎  
ニ命有テニ股ノ城ヲ守ラシム此向七  
年

或記ニ曰ク此取身御譜代ノ城持也

人アリ吉田ニ酒井左衛門尉吉良ニ  
石川伯耆守掛川ニ石川日向守ニ股  
ハ大久保七郎右衛門也

一廿七日 信長 大神君ト議シテ水野  
信元ヲ誅セシト欲ス 大神君卒岩七  
之助ニ命有テ岡崎ノ城下相應寺ニテ  
殺セト石川伯耆守信元ニ先達テ往ク  
遂ニ信元ヲ殺ス信長水野信元カ舊領  
ヲ以テ讒臣佐久間右衛門尉ニ賜ル



天正四丙子年

正月大

廿日例ノ如夕御鑑ノ賀儀アリ諸士濱

松ノ城ニ叅賀ス又連歌ノ御會アリ去

此日連歌毎年此日行

二月小

一七日上杉謙信書ヲ酒井左衛門忠次

ニ投ス大神君ト謙信共ニ勝頼ヲ夾

テ是ヲ攻ニ事ヲ告ル

一大神君遠州横須賀ニ城ヲ築カシ大



井ニ葦ニ樽山ノ城ヲ拔キ給ヒ勝坂ノ  
城ヲ攻給フ天野宮内左衛門塩見坂ノ  
險ニ據テ是ヲ拒ク御味方ノ先鋒利ヲ  
失テ離散ス大原大助大濱平左衛門命  
ヲ殞ス水野惣兵衛若戦ニテ敵ヲ追返  
ス大久保忠世ニ命ニテ石嶺ニ登ラニ  
テ是ヲ攻サシム天野是ヲ守ルニ堪ス  
鹿鼻ノ城ニ壁ス此地隘阻ニテ士卒  
ヲ勞スルニ恐ス兵ヲ収テ濱松ニ皈リ  
玉乃四日

三月六

一十七日 大神君松平甚太郎家忠松平  
周防守康親ニ連書ヲ賜リ采地ヲ宛行  
ル  
今度氏真就駿府入國為牧野城番其  
方相添依申付駿州山東知行半久宛  
行事付國政等之儀者其方申附可相  
勤事  
一山東無一偏者山西知行半久之事  
一對氏真諸篇異見可申聊可令踈略事







二 二子ヲ呼出シテ正親謂テ曰ク我思  
フ事他ナシ此二子君ノ御哀憐ヲ請テ  
忠義ヲ盡シ其器ニ依テ奉仕ニ事ヲ願  
フ大神君是ヲ諾シ給フ卒岩七之助  
親吉ヲ之テ正親カ病中ニ付テ置カシ  
メ給ヒテ還御アリ其後近臣等ヲ以テ  
屢彼ノ病ヲ尙セ給フ  
一 八月大  
一 織田信長從四位上ニ叙ス  
一 此秋三郎信康大濱ノ郷主長田卒右衛

門重元カ男傳八郎直勝ヲ召テ始テ御  
家人ニ屬ス傳八郎後ニ長田ト云録井  
改メ郎右近ニ

十一月小

一 織田信長入洛シ二條妙覺寺ニ居ル  
一 十三日 信長三位ニ叙ス同廿一日内  
大臣ニ任シ  
此年武田勝頼遠州金谷峯ノ城ニ出張  
ス  
一 大神君進テ小夜ノ中山ニ陣ニ給フ其  
夜勝頼峯ノ城ヲ退ク







一此秋、大神君遠州山梨三御進發アリ  
此山梅雪是ヲ拒クト云ヘ氏御味方  
軍士競ヒ撃メ間梅原遂ホ利ヲ失テ退  
一少日、  
一勝頼兵ヲ遠州ニ出張ス

十月小

一廿日、勝頼小山ノ城ヨリ大井川邊ニ  
出張シテ兵ヲ引テ飯ル  
一此日、大神君馬伏塚ニ陣ニ給テ信康

濱松ニ来リ給テ  
一廿一日、三郎信康勝頼力兵ヲ引テ歸  
ルヲ聞給ヒテ岡崎ニ歸ルニ給テ  
一廿二日、大神君馬伏塚ヨリ濱松ノ城  
ニ還リ給テ此日ヨリ濱松ノ城經始  
此月信忠入洛シ從三位ニ叙シ左中将  
一三任ス  
一廿四日、大神君諸將ヲ濱松ノ城ニ召  
テ美膳ヲ賜ル松平左殿助家忠列席ス  
一此月織田信長右大臣ニ任テ從二位ニ



一叙ス大将元ノ如ク  
 一此月植村出羽守家政卒去ス  
 一廿四日二月大  
 一三日織田信長三州吉良ニ狩ス  
 一大神君参州少士ニ命シテ是ヲ饗シ給  
 一廿九日大神君左近衛權少将ニ任シ  
 一給又日  
 一廿九日大神君左近衛權少将ニ任シ  
 一給又日

天享吾妻鑑第十八

天正六 戊寅年同七歳

一十六日大神君参州岡崎ノ城ニ渡御  
 一アリ松平至殿助岡崎ニ参候ニテ  
 一大神君ニ謁ス此月織田信長正二位ニ  
 一叙ス  
 一二月小  
 一四日遠参兩國大雪降積テ其深キ事  
 一四日天籛



一十八日 遠加濱松ノ城経始

三月大 濱松ノ城ノ経営ヲ止ラレ近日

一朔日 駿州田中ノ城ニ御蒞向ヲ催サレ

一七日 大神君掛川ニ陣ニ給フ

一八日 大神君掛川ヨリ大井川邊ニ御

陣ヲ移サレ

一九日 大神君兵ヲ田中ノ城ニ送レ給

七城ヲ圍テ攻テ九郎内

藤甚五左衛門熊谷小一郎小栗又一郎

城壁ニ忍ヒ寄テ城中ヲ伺ヒ先登セシ

ト欲ス城中ヨリ伏兵ヲ外ニ出シ置テ

守ラシム此伏兵一同ニ起テ是ヲ拒ク

ノ向酒井内藤熊谷小栗挑ニ戦テ城中

ニ追入ル此由大神君ノ上聞ニ達ス

命有テ曰ク軍令ヲ背テ援掛スルノ条

曲事タルノ由各四人御勅氣ヲ蒙ル

九年高天後四人氏神城二救免ル御味方ノ軍勢松平

甚太郎家忠柳原小卒太康政本多卒八

郎松平主殿助等田中ノ城外ニ至テ攻



戦ヲ家臣水ノ浅隈ヲ察シテ敵テ曰惶  
水浅シテ備ナシ急ニ攻入ヘシトテ進  
テ柵ヲ破リ外廓ニ入り已ニ木城ニ入  
ル子取一条右衛門太夫力後士城ヲ出  
テ各鎗ヲ執テ外ノ橋ノ上ニ相待ツ  
吾兵久世三四郎中根善次郎向坂宗十  
郎等鎗ヲ執テ敵ヲ追テ城兵死ヲ決シ  
テ拒キ戦フ吾兵悉ク退ク松平左殿助  
後士佐野治助行家彦十郎力戦シテ首  
級ヲ得タリ戸田三郎右衛門忠次力軍

士黒田次右衛門安部半兵衛岸上勘三  
郎福井源藏先登シテ能ク戦フ此後ニ  
井伊万子代直政出進ム度ニ衆ニ先ス  
皆入稱シテ勇士ノ器ナリト云  
一十日 大神君牧野ノ城ニ御陣座  
一十三日 大神君ノ兵小山ノ城ヲ攻ム  
一此日 諷信<sup>上杉</sup>輝<sup>輝</sup>卒去ス景勝<sup>記</sup>平<sup>平</sup>景  
席<sup>三</sup>國ヲ争テ相戦フ景勝<sup>記</sup>平<sup>平</sup>景  
テ遂ニ立ツ<sup>護</sup>信<sup>信</sup>景<sup>景</sup>席<sup>席</sup>ヲキ<sup>故</sup>ト<sup>北</sup>条<sup>氏</sup>康  
故<sup>景</sup>勝<sup>二</sup>子<sup>子</sup>嗣<sup>ト</sup>ス<sup>ル</sup>



一十八日 牧野ノ経営成ル是ニ依テ  
大神君濱松ニ還リ給フ

四月小

一十七日 三郎信康參州岡崎ノ城ヨリ

濱松ノ城ニ登テ大神君ニ謁見アリ

一十八日 信康濱松ヲ出テ岡崎ニ歸リ

玉ノ

七月小

一三日 大神君ノ台命ヲ奉テ松平主殿

助遠州横須賀ノ城取出ノ要害ヲ奪久

残暑甚夕苦身タルノ由大神君ヨリ

御使ヲ下サレ瓜ヲ家忠ニ賜ル

八月小

一七日 牧野ノ城番西郷孫九郎ニ代テ

松平甚太郎勸ム

一八日 大須賀康高天神ノ城下国安

川ノ邊ニ軍ヲ發シテ武田力兵ト戦ハ

シム武田力軍勢利ヲ失テ敗北ス康高

後卒多ク首級ヲ得夕リ殊ニ坂部三十

郎廣勝戦切ヲ盡ス本多平八郎石川長



門守久野三郎左衛門是ヲ記之ヲ濱松  
二 献ス  
一廿一日 大神君及ヒ三郎信康遠州小  
山ノ城ニ御進發アリ  
一廿二日 大神君兵ヲ率之ヲ大井川ヲ  
涉リ給フ此暇吾兵ノ先隊田中ノ邊ニ  
一 所田ス命ヲ奉テ松平至殿助士卒ヲ分  
テ大咎衰ハ差遣ス平岩七之助親吉力  
一 輕卒蒞田ニ趣キ敵ト戦テ疵ヲ蒙ル家  
一 忠後卒ヲ之テ是ヲ并呂ニテ送ラシム

大神君遠目持船ニ至テ還リ給フ石川  
一 伯耆守殿夕リ敵持舟ノ城ヨリ出テ吾  
一 兵ノ跡ヲ躡テ来ル伯耆守返ニ合テ敵  
一 ヲ山上ニ追走シム松平石見守酒井共  
一 七郎大久保荒助大田善太夫安藤治右  
一 衛門石川八左衛門菅沼藤藏其外松平  
一 源次郎真乘力後士松平久助同年人河  
一 合帶力梅村喜八郎伊集田治兵衛近藤  
一 又左衛門武井角左衛門河合藤十郎鈴  
一 木源太郎等各返ニ合テ首級ヲ得夕リ



于貳一条右衛門太夫田中ノ城ニアリ  
大神君令之テ曰ク彼レ或ハ城ヲ出テ  
追事アラニ田中ニ向テ其後退クヘニ  
既ニ之テ吾兵田中ノ城下ニ至リ伴テ  
是ヲ攻ル真似ニテ退ク城兵以為ク敵  
已ニ城中ニ攻入ヘニトテ堅ク諸營ヲ  
守テ敢テ出スニ大神君遂ニ大井川ノ  
渉ル  
一廿六日 家忠力軍士蒞田ノ為ニ田中  
表ニ羞ス

一廿八日 甚雨烈風ス牧野城近ニ并俟  
一トシテ敵七八騎来リ伺ヒ速ニ退クハ  
尚御味方ノ城兵出テ戦フニ不及  
一九月大  
一四日 大神君駿州ヨリ兵ヲ牧野ノ城  
ニ収メ給フ牧野ノ城番仁連木衆ニ代  
テ松平至殿助家忠勒ム  
一六日 大神君牧野ノ城ヨリ濱松ニ還  
リ給フ信康岡崎ニ皈リ給フ三州ノ諸  
將ハ牧野ノ城ニ残り留テ城壁ヲ修補



ス高牧野ノ城兵等ハ命ニ依テ今城ニ  
軍ヲ獲ス此取扱倉四郎右衛門ニ命ニ  
テ牧野ノ城ニ兵糧ヲ入サセラル  
一十二日 大神君岡崎ニ渡御  
一十四日 大神君濱松ニ還リ給フ  
一十月 小  
一十九日 武田勝頼兵ヲ卒ニテ遠州ニ  
出張スルノ旨酒井忠政是ヲ註進ス  
一廿七日 三郎信康武田力兵ヲ出ス事  
一ヲ備給ヒテ濱松ニ来リ給フ

一廿八日 申ノ刻大地震此日武田力兵  
山ヲ越来ルノ由牧野ノ城ヨリ濱松ニ  
註進ス  
一晦日 敵大井川ヲ越ユルノ由牧野ノ  
城ヨリ濱松ニ註進ス是ニ依テ参州ノ  
諸將命ヲ奉テ見付ノ驛ニ陣ス高天神  
ノ城ヨリ夜半ニ及テ敵ノ兵一人竊ニ  
城ヲ出テ御味方ノ圍ニテ脱レ去ラニ  
卜欲ス渥美源五郎勝吉是ヲ討捕ル勝  
吉是ヲ大神君ニ献ス



十一月大

一二日武田勝頼小山相良邊ニ陣ヲ移  
スノ由註進アルニ依テ大神君及ヒ  
信康馬伏塚ニ御進發アリ諸卒ハ皆柴  
原ニ屯ス  
一三日大神君信康御父子軍ヲ師テ横  
須賀ノ城近邊惣社山ニ陣ニ給フ其兵  
八千余騎諸卒ハ各山下ニ陣ヲ張ル武  
田勝頼進テ横須賀ノ城ヲ攻メト欲シ  
共テ卒ニテ横須賀ニ赴ト云ヘ凡此道

大神君ノ陣ニ給フ山下ヲ経ルノ間  
大神君ノ武威ニ恐テ猶豫ス小笠原其  
八郎及ヒ山縣カ陣代小菅五郎兵衛ニ  
手ノ軍勢海路ヲ往テ横須賀ノ城邊ニ  
至ル横須賀ノ城ハ大神君賀五郎左衛門  
康高城至トニテ笈助太夫等相加テ是  
ヲ守ル笈進テ城中ヨリ出張ニ輕卒ヲ  
指揮ニテ戦ハシム小笠原其八郎小菅  
五郎兵衛輕卒ヲ進メテ失軍ス勝頼陣  
ヲ分以事十七列大神君ノ御陣ト入



江ヲ隔テ陣ス于貳武田力臣強テ諫ル  
ニ依テ勝頼不叶ニテ吾ヲ引テ高天神  
ニ退ク大須賀康高力軍士渥美源五郎  
驚山傳八郎浅井九左衛門柘植又十郎  
等勝頼力後軍ヲ追テ撃テ渥美柘植ニ  
人首級ヲ得タリ大神君其軍功ヲ褒  
セラレ渥美源五郎ニ華胴服ヲ賜ル  
一四日敵ノ奸侯横須賀ノ城近邊ニ表  
川伺フ  
一七日水野藤次郎ヨリ荒木攝津守村

重信長ニ致ク事ヲ註進ス  
一十二日武田勝頼高天神ノ引退ク  
一十四日柘辛至殿助家忠進テ掛川ノ  
蓋田ニ兵ヲ發スルノ處ニ武田力先隊  
大井川ヲ涉リ来ルノ由其告アリ  
一十七日敵ノ兵三隊鳴田ニ至テ出張  
スルノ旨牧野ノ城ヨリ是ヲ告ク  
一十九日敵青塚ノ陣ヲ引テ田中ノ城  
ニ退ク  
一晦日武田勝頼去ル廿五日兵ヲ収テ



甲州ニ飯ルノ由註進スルニ依テ  
大神君濱松ノ城ニ御凱旋アリ此日信  
康濱松ヲ出テ岡崎ノ城ニ歸リ給フ  
十二月小  
一二日信康岡崎ノ城ニ至ル  
大  
一  
一  
一  
一

天正七己卯年  
正月大  
一朔日諸士濱松ノ城ニ登テ大神君  
一二謁ニ新正ノ賀儀ヲ献ス  
一二日之夜ニ入テ御謠初アリ例ノ如ク  
諸士登營ス  
一廿日大神君參州吉良ニ狩ニ給フ  
一廿九日大神君吉良ヨリ濱松ニ還リ  
給フ  
二月小



一九日 大神君命有テ當十八日ヨリ再  
七 濱柘ノ城経始アリ松平主殿助是ヲ  
監スヘキノ由ヲ仰附ラル  
一廿一日 大本多作左衛門重次力搦ヘノ  
普請今日ヨリ始ル  
一廿二日 三月大  
一六日 牧野ノ城ノ警衛松平主殿助家  
忠ニ命セラル家人ヲ分テ濱柘ニ残シ  
留テ普請ノ事ヲ修セシメ家人忠濱柘ヲ  
發シテ掛川ニ着ク

一七日 松平主殿助牧野ノ城ニ至リ西  
郷孫九郎三代テ牧野ノ城ヲ守ル  
一廿五日 膝頼国安ニ陣ス夜ニ入  
大神君信康ト馬伏塚ニ陣シテ是ニ對  
シ玉ヲ  
一廿六日 牧野ノ城番戸田新六郎三代  
テ松平主殿助深溝ノ城ニ飯  
一廿七日 膝頼国ヲ去ル  
一廿九日 膝頼大井川ヲ涉テ退ク故ニ  
大神君濱柘ニ御凱旋アリ



四月大

一七日 遠州濱松ノ城ニ於テ 台徳院

一 殿御誕生諸士 恭賀ステ 大神君命

ニテ 土井甚三郎於テ 頭 七 勝 上 其 後 大

一 台徳院殿ニ 附テ 給フ 是ヨリ 甚三

郎 日夜 怠ラズ 勤仕ニテ 遂ニ 輔佐ノ 臣

トナル

一 廿三日 勝頼 駿 江 屍ニ 至テ 出 張ス

一 二 依テ 當サ 六日 松平 定 殿 助 兵ヲ 卒

一 二 濱松ノ 城ニ 馳 参ル 旨ニ 大神

一 君ノ 命ヲ 奉テ 石川 伯 耆 守 敷ニ 家 忠ニ

告ル

一 廿五日 松平 定 殿 助 士 卒ヲ 携ヘ 濱松

二 参着ス 武田 力 軍 勢 高 天神ノ 城 下 国

一 安ニ 陣スルノ 由 其 聞ヘ 了リ

一 廿六日 夜ニ 入 大神 君 馬 伏 塚ニ 御

獲 向アリ 三郎 信 康ニ 此 曉 馬 伏 塚ニ 至

リ 給フ 参州ノ 軍 勢 等 各 見 付ノ 驛ニ 陣

ス

一 廿七日 参州ノ 軍 勢 進テ 俣 井ニ 至ル



一武田力兵衛國安ヲ引退クノ由其告アリ  
一廿九日馬伏塚ノ守持大神君ニ属  
ス今日武田力兵衛大井川ヲ涉テ退クノ  
由詳進アルニ依テ大神君濱松ノ城  
ニ還リ給フ  
一此月北條氏政力軍勢海賊ヲ浮嶋力原  
ノ磯ニ進メテ武田力兵衛小濱間宮等ト  
一船軍ス武田力兵衛ヲ得タリ

八月小

一三日大神君參州岡崎ノ城ニ渡御ア

リ  
一三郎信康ト御父子ノ間御不快タ  
ルニ依テ其監觴ヲ尋ルニ信康ノ母堂  
築山殿嫉妬ノ故ヲ以テ先年大神君  
御離別アリテ伊勢越前等ノ國ニ流落  
アリケルヲ信康哀憐シテ是ヲ近クハ  
置ク築山殿生質邪倭ナルニ依テ信康  
夫婦ノ間ヲ以テ不知ナラシメ且ツ信  
長ヲ殺シテ信康ヲ立ント謀ル故ニ今  
茲ノ復信康ノ室信康ノ十二ノ罪ヲ印  
シテ酒井左衛門尉ヲ使下シテ信長ニ



是ヲ告ク信長其書ヲ見テ酒井ヲ召テ  
是ヲ向ヘハ十罪皆信也残ニ罪ヲ向ニ  
及ハス則酒井ヲ使トシテ大神君ニ  
達シテ曰ク信康心邪ニ行辟メリ家ヲ  
衛ル事能ハス早ク誅謬シテフヘシ酒  
井信長ノ命ヲ聞テ濱松ニ赴ク岡崎ヲ  
経テ信康ニ謁セズ信康是ヲ察シテ曰  
ク父ト國トノ為ニ誅セラレニ事厭フ  
ヘカラストテ居ナカラニシテ罪ヲ待  
ツ酒井信長ノ命ヲ大神君ニ言上ス

大神君ノ曰信長彼ヲ誅セシト欲ル事  
尤也ト仰有テ此日信康ヲ同國大濱ニ  
一赦逐シ給フ卒岩七之助ハ信康ノ傳又  
ルニ依テ大神君ニ言上シテ曰卒爾  
ニ信康ヲ殺シ後必悔給フヘシ我傳ト  
シテ教ル事能ハス罪我ニ有リ吾頭ヲ  
刻テ信長ニ送ラハ信長何ソ憤ラシト  
諫レ氏大神君信長ノ言ヲ背クニ忍  
ヒ給ハス故ニ卒岩カ諫ヲ聞給ハス  
四日三郎信康大濱ノ郷ヨリ岡崎ノ



城ニ未テ大神君ニ謁ニ誤リナキノ  
旨言ヲ盡シ陣謝スルト云ハ氏大神  
君遂ニ御疑心散セサルノ向信康甚雨  
ヲ凌テ夜中ニ又大濱ノ郷ニ歸リ給フ  
一五日松平家忠西尾ノ城ヲ警固スヘ  
キ旨會有リ同日大神君西尾ノ城ニ  
渡御  
一七日大神君西尾ヨリ岡崎ニ還リ給  
フ

一九月三郎信康ヲ大濱ヨリ遠州堀江  
ノ城ニ移サル其後大久保七郎右衛門  
三預テ玉ヒテ二股ノ城ニ移サル  
一十日松平主殿助并諸將ヲ岡崎ノ城  
ニ召テ三郎信康ニ密通ノ音向致ス  
ニキノ由諸將ニ命ニ給ヒ各起請文ヲ  
捧ク  
一十二日大神君岡崎ヨリ濱松ノ城ニ  
還御本多佐左衛門岡崎ノ城ヲ守ラシ  
一廿九日信康ノ母公築山殿害ニ遇フ



一 園口形部少輔力女岡本平右衛門是ヲ  
害ス

九月小

一二日 大神君聊力御不倒

一 北條氏政勢ヲ園東ニ揚ルト云ヘ氏信

長ノ威風ヲ痛テ請テ是ニ属シ大神

君ト約ヲ期シ武田勝頼ヲ討ニト催ス

一 五日 北條使ヲ大神君ニ告テ云ク

我勝頼ヲ豆州ニ相支ヘシ于取勝頼力

後ヲ襲ヒ給ヘ大神君是ヲ誥ニ給フ

一 十三日 大神君北條氏政ト御和睦ス

此ニ依テ其手合トシテ駿州表ニ御勤

産可有ノ旨諸將ニ觸催サル

一 十五日 濱松ヨリ服部宗藏 大神君

ノ命ヲ奉テ二股ニ来リ三郎信康生害

ノ事ヲ告ク信康竟ニ生害ニ給フ于取

歳法名騰雲 院隆岩長越 遠州住人天方山城守是ヲ

介錯ス信康ノ女子二人赦免有テ恙ナ

シ一人ハ小笠原兵部太輔秀政ニ嫁ス

一人ハ木多義濃守忠政ニ嫁ス信康ノ



從士三十余騎内藤彌次右衛門家長二  
預ケラル

一十七日北條氏政勝頼卜黃瀬川ニ於

テ戦ニトス大神君是ヲ南給七早速

兵ヲ進メニト命アリ酒井左衛門尉諫

テ云ク敵城多ク後ニアリ險隘ヲ経テ

大敵ニ當ル事善謀ニ非ス東國ノ變ヲ

待給フヘニト言上ス大神君曰ク北

條武田ト相支ニ救ハスニハアルヘ力

ヲス吾北條ト約ヲ定ム蓋皆ニヤト命

有テ此日駿州ニ入ニト欲ニテ掛川ハ

驛ヲ發ス

一十八日大神君駿州ニ入給フ諸卒ハ

二山ニ陣ス

一十九日大神君松平甚太郎牧野右馬

允松平周防守ニ命ニテ拵船ノ城ヲ攻

給フ勝頼力將三浦兵部少輔向井伊賀

守此城ヲ守ル此取大神君ノ兵戦功

アリ吾兵由井倉澤ノ邊ヲ放火ス勝頼

大神君ノ由井ニ至リ給フト南テ諸將



ヲ招集メ一戦ヲ決セニト議ス先ツ使  
ヲ馳テ北條氏政ニ告テ曰ク氏政吾ト  
雌雄ヲ決セニト欲セハ吾黃瀬川ヲ涉  
テ合戦スヘシ然レ氏政大神君已ニ兵  
ヲ由井倉澤ニ蒞スト聞ク當ニ吾富士  
川ヲ涉テ彼ト相戦ニト欲ス氏政若シ  
吾臨ヲ拒マハ是吾願フ所也必ス一戦  
ヲ遂クヘシ氏政報答セス勝頼北條ヲ  
支ヘニ力為ニ典厩ト高坂源五郎トヲ  
留メテ沼津ニ居ラシメ黃瀬川ヲ出テ

一河成ニ陣ニ大神君ト戦ニト欲ス此  
取富士川水漲リ川瀬分明ナラス勝頼  
已ニ是ヲ涉ル大神君是ト合戦セシ  
ト命アリ石川伯耆守大須賀五郎左衛  
門諫テ曰ク田中ノ後語ニ在リ輕シク  
敵地ニテ戦ハハ危カラシ大神君是  
ヲ然リトシテ藤枝ノ稻ヲ蒞シメラレ  
テ陣ヲ退テ給フ酒井左衛門尉瀬戸ニ  
在リ是ヲ以テ殿トシ給フ  
一廿五日 勝頼駿府ニ皈ル大神君兵



一 又收于伊良崎ニ還リ給ヒ大須賀康高  
松平康親殿ニ于敵ヲ拒ク御味方ノ兵  
馬筏ヲ組テ大井川ヲ渡ス  
一 晦日 大神君牧野ニ入給フ  
一 朔日 大神君牧野ヨリ濱松ノ城ニ還  
リ給フ  
一 九日 大神君今川氏真ヲ濱松ノ城ニ  
テ饗レ給フ  
一 十九日 大神君濱松ヲ御進發有テ掛

一 川ニ御陣座  
一 廿一日 遠州川上村ニテ大須賀康高  
伏兵ヲ設ケ敵ヲ討テ首七級ヲ得タリ  
一 廿六日  
一 十一月 大神君ノ命ヲ奉テ  
一 四日 松平家忠 大神君ノ命ヲ奉テ  
井呂力崎ニ伏兵ヲ設ケ狼煙ヲ以テ約  
ヲ期ス此取近邊ノ野ニ火ヲ放ツ事有  
リ其約相違ス大神君怒リ給ヒテ放  
火スル者ヲ御糺明了ル處ニ鳥居彦右



衛門力輕卒也彼者ヲ斬罪セラル  
一七日 松平家忠 大神君ヲ命ヲ奉テ  
瀧坂表ニ伏兵ヲ設ク敵爰ニ来ル是ヲ  
急ニ討シ敵敗走ス敵兵ノ首五級撃捕  
ル其外亦荷駄二十疋追崩シテ是ヲ奪  
一八捕リ大神君其功ヲ褒セラル  
一十九日 大神君濱松ヲ御出馬掛川ニ  
着御諸卒ハ近邊ノ邑里ニ屯ス  
一二十三日 御味方ノ軍勢横須賀ニ陣ヲ  
移ス

一十五日 大神君濱松ニ還御  
一廿日 夜ニ入本多百助ヲ上使トシテ  
諸將各暇ヲ給ハル濱松ハ葦ニテ居城  
自赴少  
一廿四日 松平家忠ニ蒼鷹ヲ賜ル  
此日武田カ兵駿州田中ニ出張スルノ  
由濱松ニ註進  
一廿五日 敵田中ニ出張スルノ向松平  
家忠共ヲ卒ニテ濱松ニ馳参ヘ奉旨命  
アルヲ由天野三郎兵衛康景岡崎ノ城



ヨリ深溝ノ城ニ告ル是ニ依テ家忠深  
溝ヲ發シテ此日荒井ノ驛ニ至ル  
一廿六日 松平家忠濱松ニ參着ニ城ニ  
登テ大天神君ニ謁ス敵高天神ノ城ニ  
移ルル由此日濱松ニ註進アリ  
一廿七日 松平家忠濱松ヲ發シ進テ見  
付三陣ス敵国安ヲ引退クノ由其告ア  
リ是ニ依テ家忠兵ヲ卒ニテ濱松ニ旣  
一廿八日 松平家忠濱松ニ旣  
一廿九日 松平家忠濱松ニ旣

一二日 松平至殿助家忠休暇ヲ賜テ深  
溝ノ城ニ歸ル

一廿日 松平家忠濱松ニ旣  
一廿一日 松平家忠濱松ニ旣  
一廿二日 松平家忠濱松ニ旣  
一廿三日 松平家忠濱松ニ旣  
一廿四日 松平家忠濱松ニ旣  
一廿五日 松平家忠濱松ニ旣  
一廿六日 松平家忠濱松ニ旣  
一廿七日 松平家忠濱松ニ旣  
一廿八日 松平家忠濱松ニ旣  
一廿九日 松平家忠濱松ニ旣



一 二月廿一日 御幸 尾州清州  
一 二月廿二日 御幸 尾州清州  
一 二月廿三日 御幸 尾州清州  
一 二月廿四日 御幸 尾州清州  
一 二月廿五日 御幸 尾州清州  
一 二月廿六日 御幸 尾州清州  
一 二月廿七日 御幸 尾州清州  
一 二月廿八日 御幸 尾州清州  
一 二月廿九日 御幸 尾州清州  
一 二月三十日 御幸 尾州清州

天享吾妻鑑第十九

一 天正八年 庚辰年ヨリ同九穂

一 正月 正月小

一 朔日 新正ヲ祝ニ奉ラシカクメ諸士

濱松ノ城ニ参賀ニ太神君ニ拜謁ス

一 二日 夜ニ入テ御謠初アリ例ノ如ク

諸士登管ス

一 三日 膳頼高天神ノ城後援トシテ甲

斐信濃ノ一揆ヲ催ニ軍ヲ出スノ告有

二 依テ織田信忠兵ヲ卒シテ尾州清州



二至ル

一四日横須賀ノ城警衛トシテ水野監

一物同惣兵衛是ニ趣ク

一五日大神君從四位上ニ叙之給フ

一廿四日大神君參州西尾ニ狩之給フ

一廿七日大神君岡崎ノ城ニ渡御アリ

三月小

一十三日當十六日高天神取出ノ為ニ

招平至殿助家忠士卒ヲ携ヘ濱柘ニ參

陣スヘキノ旨ハ釣命アルノ由酒井忠

次吉田ノ城ヨリ深溝ニ告ル

一十六日家忠濱松ノ城ニ至リ大神

一君ニ謁ス

一此日大神君濱松ノ御出馬

一此日高天神ノ城兵天王ノ馬場ニ出

一張ス大須賀康高中村ノ砦ヨリ兵ヲ發

一之ヲ相戦フ康高力從士久世三四郎坂

部三十郎廣勝氏家金次郎近藤武助菅

沼藤藏鷲山傳八進ヲ鎗ヲ合セ奮ヒ戦

フ其餘康高力從士戦功ノ者多シ奉



平八郎忠勝力軍士内山忠三郎日置小  
左衛門先鋒ニ進テ鎗ヲ合セ力戦ス忠  
勝力軍勢競ヒ懸テ急ニ攻討シ遂ニ的  
場曲輪ノ柵ヲ破ル  
一十八日 高天神ノ城ヲ攻給ハシ為  
一砦ヲ大坂山ニ築キ給フ 命ヲ奉テ相  
一平至殿助家忠大坂山ニ葦ノ  
一廿日 大坂山ノ砦ヲ修ス  
一廿五日 大坂山ノ砦修築キニ夕成テ  
又高 命ニテ中村ノ取出ヲ築カニ又

給フ

一廿八日 中村取出ノ要害成ル  
一廿九日 取出ヲ田中ニ築カニ又給フ  
閏三月大  
一九日 大神君濱松ノ城ニ還御  
一廿四日 武田勝頼師ヲ帥テ豆州表ニ  
出張ス  
一晦日 来月五日 大神君駿州表ニ御  
勤座ノ由参州ノ諸將ニ觸催サレ  
四月小



一十六日 松平主殿助家忠牧野ノ城警  
衛ノ夕夕此日濱招ニ参着ス

一十八日 牧野ノ城番西郷孫九郎家貞

ニ代テ招平主殿助家忠城ヲ守ル

一廿七日 参州ノ軍勢等池田ノ驛ニ陣

一又日

五月九

一朔日 大神君田中持船等ノ苗ヲ刈

一又之力為ニ濱松又御進發有テ掛川ノ

驛 御陣座

一二日 吾前隊ノ兵既ニ伊良ニ陣ス諸

兵ハ牧野ニ化ス

一三日 田中ノ城ヲ攻ム此年依田右衛

一門督田中ノ城ニ移リ居テ是ヲ守ル

一四日 吾兵遠目ニ至リ八幡山ニ陣

テ花澤ノ苗ヲ踏ム

一五日 輕卒ヲシテ田中ノ城邊ノ麥ヲ

悉ク薙シメテ大神君兵ヲ収テ還リ給

フ右川伯耆守數正殿ス于時持舟ノ城

ヨリ朝比奈駿河守力軍勢不意ニ出テ



大神君ノ後陣ヲ襲フ酒井河内守重忠  
松平周防守康親内藤彌次右衛門家長  
鳥居彦右衛門元忠松平和泉守平岩七  
之助親吉牧野新次郎康成鈴木紀三郎  
小泉基等通り合セテ力戦ス松平左近  
一太夫直乗横合ニ馳テ頻ニ競ヒ戦フ敵  
忽ニ敗北ス菅沼藤藏城兵朝比奈小隼  
一人同監物ヲ討捕ル其功ニ依テ駿州長  
沼郷ヲ藤藏ニ賜フ

一説ニ曰ク此役ニ内藤左馬助カ外

一 勇水野彦九郎深ク敵陣ニ入テ戦死  
一 又彦九郎ヲ討死ス敵ニ騎也藤藏ハ  
一 彦九郎ト舊友ニ非スト不ハ氏其死  
一 見テ恐ヒ難ク馳至テ其敵ニ騎ヲ  
一 討捕テ首數ヲ得タリ遂ニ彦九郎力  
一 首ヲ敵ノ手に供ス于辰朝比奈小  
一 隼人傍ニ有テ士卒ヲ指揮ス藤藏進  
一 テ小隼人ヲ切ル事ニ刀小隼人馬ヨ  
一 リ落スト不其後者數十人馳来リ助  
一 ケ乗セテ遠ニ去ル是ニ依テ藤藏小



隼人力首級ヲ得ル事能ハス  
安藤彌次右衛門正次六十一矢部彌三  
郎ヲ討ツ是ニ依テ永樂二十貫ヲ正次  
拜ス須田文平櫻井兵庫ヲ擊ツ戸田小  
麥右衛門朝比奈市兵衛ヲ討以共外城  
兵長苔川左近首藤左衛門右原五郎佐  
天野角右衛門庵原傳内等ヲ始三十二  
人或ハ十餘少皆吾兵ノ為ニ斬ラハ吾兵  
是ヲ追撃テ遂ニ城中ニ入ラシメ城將  
駿河守及ヒ奥原日向守久野角内等散

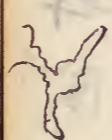
卒招集メ悉ク城中ニ入テ堅ク保護  
ス故ニ吾兵是ヲ攻スニテ牧野ノ城ニ  
退ク

一十七日 牧野ノ城番戸田新六郎ニ代  
テ松平主殿助家忠濱松ニ皈ル  
六月小

一十日 大神君横須賀御出馬アリ諸兵  
鎌田ニ陣ス

一十一日 高天神ノ城ニ對シテ岩ヲ鹿  
个鼻ニ築カシメ給テ諸兵是ヲ守ル



或記ニ云ク 大神君高天神城外ニ  
於テ岩ヲ六所ニ結ハシメ給ヒ成瀬  
吉右衛門正一二 命有テ曰ク汝此  
地ニ留テ晝一回夜一回城外ヲ巡檢  
スヘシ岩中ノ衛士ヲシテ慢ラシム  
ル事勿レト也正一謹テ 命ヲ奉テ  
一人ヲ副ラレニ事ヲ請フ 大神君  
曰ク汝其可ナル者ヲ一人撰フヘシ  
トアリケレハ正一答テ云ク日下部  
 然ルヘシ是ニ依テ成瀬日下部ニ

命シテ城外ヲ廻ラシメ給フ百廿日  
去ク尙一日一夜怠ル事ナシト云ク  
一十七日 火ヲ高天神ノ廊外ニ放シ  
一十八日 輕卒ヲ以テ高天神ノ城外ノ  
稻ヲ刈シメ 大神君御凱旋アリ  
七月小  
一廿日 大神君掛川ニ御進發アリ參州  
ノ軍勢ハ山口ニ屯ス  
一廿一日 酒井左衛門尉石川伯耆守本  
多辛八郎等ノ先隊ノ兵大井川伊良崎



二 出テ稻ヲ刈リ直ニ田中小山等ノ地  
ニ出テ退ク  
一 廿二日 吾兵小山ニ進テ相戦ヒ敵ヲ  
一 終ニ討捕ル松平主殿助家忠力後士能  
ク戦テ疵ヲ被ル者二人アリ  
一 廿三日 酒井左衛門忠次先日ヨリ田  
一 中ノ城ヲ圍ム石川伯耆守數正忠次ニ  
一 代テ田中ノ城邊ニ陣ス是ニ依テ忠次  
吉田ノ城ニ飯ル  
一 廿四日 小山表刈田ノ拒テトテテ指

一 置ク本多平八郎忠勝力後卒三騎敵ヲ  
一 戦テ死ス  
一 廿五日 大神君ノ命ヲ奉テ松平主殿  
一 助家忠小山表ニ兵ヲ發ス直吉等共  
一 廿六日 大神君軍ヲ掛川ニ収メ給フ  
諸將モ又掛川ノ驛ニ飯リ聚ル  
一 廿七日 大神君濱柘ノ城ニ還リ入給  
フ  
一 八月 小  
一 北條氏政師ヲ帥テ黄瀬川ニ出張ニ武



一 田勝頼ト對陣ス兼テヨリ民政兼大神  
 君ト約シテ勝頼カ陣ヲ前後ヨリ扶シ  
 テ攻撃ニト謀ル  
 一 十六日 北條氏政カ使小笠原某濱松  
 二 来テ武田勝頼ト對陣シ事ヲ大神  
 一 君ニ告ル  
 一 廿七日 松平次郎右衛門重吉參州野  
 一 見ニ於テ卒去八十三歳  
 一 九月小  
 一 十八日 當廿二日松平至殿助家忠兵

一 夕卒シテ濱松ニ參陣スヘキノ旨  
 大神君ノ鈞命ヲ蒙ル  
 一 廿日 大神君御出馬猶豫ノ旨濱松ヨ  
 一 リ參州ノ諸將ニ觸レ知ラシメ給フ  
 一 廿三日 大神君命有テ水野惣兵衛忠  
 一 重ニ三州蒞屋ノ城ヲ賜ル  
 野守信元蒞屋ノ城ニ至テ害割高カ其左衛  
 天正三年信長ノ為ニ生害割高カ其左衛  
 一 門清長 守後ト号ス内遠州馬伏塚ノ城及ヒ  
 一 鐺田ノ郷ヲ賜ル

十月大



一十二日 大神君軍ヲ帥テ濱拓ノ城ヲ  
御進發アリ  
一十九日 松平主殿助家忠及ヒ參州ノ  
諸將大須賀ニ陣ス  
一廿日 大神君ノ命ニ依テ諸將人夫ヲ  
一山ニ登セテ柵本ヲ伐ラシム  
一廿二日 吾兵進テ高天神ノ城際ニ陣  
ス 大神君命テ柵ヲ須賀橘苔藓五  
花萱等ノ地ニ結ハシメ壘ヲ築キ堀ヲ  
深シ廊外一間ニ軍士一人ヲ配テ堅ク  
城ヲ圍ヒシメ城兵ヲシテ出ル事ナカ  
ラシメ給フ  
一廿四日 高天神ノ城外柵ヲ結テ成就  
ス  
一廿八日 大神君高天神ヨリ陣ヲ馬伏  
塚ニ移シテ高天神ノ城兵驚坂甚太  
夫ヲ使卜シテ甲州ニ告ク 大神君ノ  
勢日々ニ強シ既ニ城下ニ迫テ急ニ攻  
ム 城兵氣屈シ疲ル久シク保護スル事  
成難シ請フ急ニ是ヲ救ヒテハシト



予甚太夫私力ニ城ニ入ル于取横田甚  
五郎モ又城中ヨリ勝頼ニ達ニテ云ク  
必ス救ヲフ莫勿レ若シ勝頼兵ヲ出シ  
テ寄手ヲ追討テ始ノ如ク城ヲ保ツ取  
ル可也然レ共ニ大神君横須賀ニ陣ニ  
諸兵六ヶ所ノ寨ニアレハ是ヲ追討事  
易カラス寄手吾兵ヲ遮テ信長ニ援ヲ  
請ハ、猶以テ難儀ナルヘシ且ツ北條  
ハ信長ニ大神君ト相通ス是ニ依テ吾  
弊ニ乘テ兵ヲ殺セハ吾兵前ニハ

大神君ト戦ヒ後ニハ信長氏政ノ兵ヲ  
受ケハ彌城兵ヲ助クル莫難カルヘシ  
城兵皆君ノ為ニ死ヲ輕ニテ始終ノ勝  
ヲ要ス緞ヒ救ハント云氏豈ニ城兵城  
ヲ出テ死ヲ免ルハ心アラシヤサレ氏  
強テ救ハントナラハ期スル日限ヲ定  
メ給フヘシ勝頼監買坂ニ出給ハニ取  
城兵脱出ツヘシ然ト云ヘ氏全ク免レ  
出ル事アルヘカラス勝頼城兵ヲ援ケ  
ニトテ兵ヲ出シ高天神ヲハ人ニ奪ハ



レ刺城兵ヲ全ヲ援ル事ニ成スニハ何  
ヲ以テ勇トセニヤ孰中是ヲ計給フハ  
之ト言ヲ少リケレハ勝頼甚五郎力計  
畧ヲ好ニ之親族及ヒ長坂長角部大  
炊助ヲ召テ相議ス長坂部ニ是ニ同  
ス故ニ高天神ノ城兵ヲ救フノ計略止  
又勝頼以為少吾甲府ニ在テ高天神ヲ  
救ハスニハ世人怯トセニ東上州ニ出  
テ北條力城ヲ拔ニトテ此月甲州ヲ出  
テ仙城ヲ拔テ飯ル

十一月小  
一十二日 大神君高天神ノ城多勢ヲ  
テ堅ク是ヲ圍ニ之メ給フノ由信長ニ  
一告給ハニ力為松平至殿助家忠ヲ御使  
トニテ安土ノ城ニ赴力ニメ玉フ家忠  
命ヲ奉テ濱松ヲ發ニテ安土ニ至リ信  
一長ニ謁ニテ御使ノ御旨ヲ述テ濱松  
飯ル是ニ依テ信長ヨリ高天神ヲ攻ル  
ノ援兵来ル

一十二月大



一五日夜ニ入高天神ノ城外石川伯耆  
守數正力陣營失火ス然リト云ヘ氏陣  
中ノ制法堅キ依テ聊モ物惣ナラズ  
一廿日信長ヨリ猪子共助福富平左衛  
門長谷川藤五郎西尾小左衛門四人使  
ト云テ高天神ニ来ル  
一廿一日大神君信長ノ四使氏ニ高天  
神ノ城ヲ巡見ニ給フ余々々々々々々々  
一廿三日大神君信長ノ四使ヲ伴テ濱  
松ニ還リ給フ是ノ饗スノ後四使ニ飯

暇ヲ給フ

一此年大神君中川市右衛門ヲ使トシ  
テ皆川山城守廣照後光甫齋ヲ庵下ニ  
属セシメ玉フ  
一此年石川日向守家成隱居ス其子長  
門守康通家督ヲ繼テ御先手ノ役ヲ勤  
ム  
一同年本多彦八郎忠次令嗣ナキニ依  
テ養子ヲ願ヒ奉ル大神君ノ命有テ  
酒井左衛門尉忠次二男ヲ養子トス







城ヲ出シト議ス然レ氏士卒皆勞レテ  
急ニ出ル事ヲ得ス吾軍是ヲ察シテ城  
兵ノ出ヘキ所ノ地ヘ兵ヲ益シテ是ヲ  
堅ク守ル大久保七郎右衛門忠世林苔  
ヲ守ル林谷ハ山高ク谷深シテ前ニ六  
笠掛川諏訪原有リ南ニ大坂横須賀有  
テ大神君是ニ陣ニ給フ城兵縦ヒ出  
ル事アリ氏免ル、事難カルヘシ故ニ  
大久保要害ヲ恃ニテ僅ニ六人ヲ以テ  
一隊トシテ是ヲ守ル城兵林苔ノ守兵

ノ多カラサルヲ見テ今夜多ノ刻ニ兵  
ヲ二隊ニ分テ城ヲ出ツ一隊ハ岡部丹  
波守横田甚五郎林苔ニ向フ于貳大久  
保忠世ハ身卒助ト六人ノ守ト十九騎  
ノ兵ヲ加ヘテ夜ヲ守ラシム卒助丹波  
守ヲ傷リ身多至水是ヲ討テ首數ヲ得  
タリ忠世他陣ニアリ是ヲ聞テ急ニ馳  
来ルト云ヘ氏敵既ニ退キ去ル又一隊  
ハ三百餘騎石川長行守康通力守ル所  
ノ豆助鳥原等ノ地ニ向フ此中尚ニ堀



有リ吾兵敵ヲ挟テ撃ツ死スル者掘ヲ  
埋ム天明テ首級ヲ得タリ此戰場ヲ脱  
レ出ル城兵等一隊ト成テ水野国松十藤  
事郎也力陣ニ向フ于貳國松ハ大神君  
ノ御陣營ニ有リ故ニ木野太郎侘及ヒ  
村越共三右衛門兩人國松ニ代テ此陣  
ニ在リ敵不意ニ出ルヲ以テ既ニ破レ  
ニトス大久保忠世力陣國松力陣ト相  
並フ忠世横合ニ敵軍ヲ衝テ破ル敵兵  
脱レ去ニトス本多平八郎忠勝鳥居彦

右衛門元忠是ヲ攻討テ肘金曲輪ニ追  
入ル松平源七郎康忠命ヲ奉テ追手  
ノ櫓ヲ燒落ス水野惣兵衛忠重其子水  
野藤十郎勝成父子ホツテ金曲輪ヨリ  
二之丸ニ進テ攻入ル水野力從卒清水  
次右衛門山本市侘先登ニテ死ス的場  
曲輪ノ敵駿數拒テ寄手聊猶豫ス于貳  
戸田孫六郎康長丹于波取守十六歳後此曲輪  
ヲ攻テ事ヲ請フ大神君許ニ給フノ  
間康長進テ攻討ツ于貳城中ニ火ヲ放



以戸田三郎右衛門忠次同少進于奮  
戦フ遂ニ的場曲輪ヲ攻破ル于敗忠次  
力從士石原孫次郎大屋吾助植田十兵  
衛等賀清助等先登之于軍功ヲ盡ス賀芳  
清助石原孫次郎西人ヲ御大及神五御前  
貫セテ地ルヲ加松平主殿助家忠進ニ戦テ  
多ク首級ヲ得タリ家忠力從士板倉木  
二右衛門忠重先駆之テ敵ノ勇兵ト向  
上戦ス敵堀ノ中ニ敗レ入ル忠重追テ  
共ニ堀中ニ入テ遂ニ是ヲ討ツ是ニ於

テ家忠力從卒板倉喜藏定重ヲ始テ精  
兵五騎戦死ス寄手ノ多勢城ニ攻入ノ  
向拒ク事ヲ待ス城兵悉ク戦ヒ死シテ  
城終ニ陥ル城兵横田甚五郎及七相木  
ノ某ハ大須賀五郎左衛門康高力陣ト  
大久保七郎右衛門忠世力陣ト伺ナル  
柵ヲ破テ遁レ去ル高天神ノ城未陥ル  
ル以前ニ内藤三左衛門信成菅沼次郎  
右衛門ヲ召テ大神君命有テ曰ク汝  
等二人固安ニ往テ陣スヘシ高天神ノ



城陷ラハ撃洩ラサルハ城兵等必ス  
 国安ニ敗レ来ラハ是ヲ待討留ヘキ  
 旨ヲ奉テ内藤菅沼国安ニ往テ陣ヲ張  
 ル大神君ノ命ニ違ハス敵国安ニ敗  
 之来ル内藤菅沼是ヲ悉ク撃捕ル  
 一今日高天神ノ城ニ至テ御味方ノ軍勢  
 討捕ル所ノ首凡七百三十余級信長ノ  
 援助ノ部将佐々内蔵助成政野々村三  
 十郎是ヲ録ニ之テ安土ニ歟ル此ノ  
 百三十八級本多鈴木越中守

十五級 水野國松 藤向守  
 十八級 本多佐左衛門  
 七級 内藤三左衛門  
 六級 菅沼次郎右衛門  
 五級 三宅宗右衛門  
 二十一級 本多彦次郎  
 七級 戸田三郎右衛門  
 五級 本多庄左衛門  
 四十二級 酒井左衛門尉  
 十六級 石川長内守



百七十七級

大須賀五郎左衛門

四十級

右川伯耆守

十級

招平上野介康忠

五十二級

本多平八郎

六級

林庄左衛門

六十四級

大久保七郎右衛門

四十一級

榑原小平太

十九級

鳥居彦右衛門

五級

松平玄蕃允

五級

久野三郎左衛門

十三級

招平明石

五級

牧野勘八郎

五級

岩瀬清助

七級

近藤平右衛門

三級

鳥居儀右衛門

菅沼新八郎定盈家司

此内駿河先方精兵、首數所謂岡部丹

波守三浦右近森川備前守厚石和泉守

朝比奈彌六郎近藤典兵衛油井加兵衛

油井藤太夫岡部帶刀招尾若狹守名郷

源太武藤形部置六笠彦三郎神應但馬



守安西平右衛門安西八郎兵衛三浦雅  
樂助 粟田力從兵 信州ノ士 備後守利  
粟田形部 栗田彦兵衛及七弟二人 勝  
股生殿助 拂木庄左衛門 山ノ士 備後守利  
根川雅樂助  
大戸力從兵  
太戸丹波守 浦野右衛門 江戸右馬丞  
土橋五郎兵衛 福島木目助

其田能登守力從兵  
其田美濃守 其田木子左衛門 其田武兵  
衛大子 有川三藏 江戸力助  
都合首數七百三十余  
此日高天神ノ城没落ニ依テ 有川伯耆  
守數正 城中ニ入テ 大河内源三郎ヲ石  
獄ノ内ヨリ 搜出シ 席ニ載テ 大神君  
ノ御前ニ出ス 命有テ曰ク 汝多年石獄  
ニ在テ 勞苦云ヘカラス 且ツ 舊功誰力  
汝ニ肩ヲ比ヘント 感歎シ 給フテ 御手



自ラ黄金及ヒ長刀短刀ヲ賜フ源三郎  
涙ヲ流シテ陣謝シ去ル敵ニ降ラズト  
云ハ氏武名ヲ贖ス事ヲ愧テ髮ヲ剃テ  
背空ト舞ス且ツ久シク獄中ニ在テ足  
痺ハテ歩行スル事能ハス養生久クメ  
命ヲ奉テ津嶋ニ赴ク其後病愈ル以テ  
依テ遠州稗原ヲ賜フト云  
一廿三日 昨夜高天神ノ城陥ルノ辰城  
中ニ籠ル所ノ兵數百人討捕スル其  
云ハ氏今日實檢ニ及テ城將等ノ首不  
一是アリ其外討滅ラサルニ城兵等近邊  
ノ山林ニ隠レ居ルノ由其間へ有ニ依  
テ諸將ニ命シテ是ヲ搜リ求シメ玉  
フ下卒等ハ數輩尋出シテ是ヲ討捕ス  
云ハ氏吏士ノ首ハ得ス  
一廿四日 大神君高天神ヨリ濱松ノ城  
ニ御凱施アリ去羊ヨリ高天神ノ城外  
圍ム諸將等ヲ召シテ軍功ヲ褒セラレ  
各休暇ヲ賜テ居城ニ皈ル

六月大



一廿八日 大神君濱松ノ城御進發有テ

見付ノ驛ニ陣立玉フ

七月小

一朔日 松平主殿助家忠命ヲ奉示相

一良ニ兵ヲ發ス

一三日 相良ノ取出ヲ修セ之メ給フ

此月ヨリ武田勝頼甲州並崎ニ城ヲ築

テ新府中ト號ス

九月大

一廿五日 濱松ノ城經營ニ依テ松平主

殿助家忠ヲ召ス家忠濱松ニ参候シテ

城ニ登テ大神君ニ謁ス

十月小

一十四日 濱松ノ城經營成ル

十一月大

一此月皆川山城守廣照織田信長ニ依テ

大神君ニ馬ヲ献ス大神君是ヲ称シ

テ御書及ヒ無上ニ賜フ

御書ニ

十二月小



一十五日 大神君馬伏塚ニ狩ニ給フ

一十七日 牧野ノ城ノ警衛西郷孫九郎

家貞三代ヲ招奉主殿助家忠是ヲ勤ム

一十八日 信長兵ヲ駿甲ニ出サニ力為

一 西尾小左衛門ヲ遣ニ糧ヲ東條ニ入

一 此月奥平九八郎行脚計加五藏子奥大神

君ノ御前ニニテ元服ス御諱ノ字ヲ拜

受ニテ家昌ト號ス御太刀持ヲ家昌ニ

賜ル

一 此年 大神君ノ御妹ヲ以テ松平玄蕃

頭家清ニ嫁セシメ給フ

一 此年 大久保五郎左衛門忠俊卒ス八

一 今年 渡邊弥之助ヲ豆輕頭ニナサシ

メ給フ

一 此年 大神君ノ命ニ依テ森川金兵衛

氏俊豆輕ニ十人ヲ預テ給フ







此日池田ノ驛ニ至ル  
一八日 松平主殿助家忠濱松ニ参候ニ  
テ城ニ登テ 大神君ニ謁ニ新春ヲ祝  
ニ奉ル子暇休暇ヲ賜リ即日家忠濱松  
一才 叢ニテ此日氣賀ニ旅宿ス  
一十四日 大神君参州岡崎ノ城ニ渡御  
一三 劾在国ノ諸士岡崎ノ城ニ群参ニテ  
大神君ニ謁ス此月濱松ニ還リ給フ  
天白二月小  
六日 是太神君鷹ノ捕ル所ノ鷹ヲ以テ

相平主殿助家忠ニ賜ル  
一六日 信州ノ木曾左馬頭義昌妹勝頼ノ  
信長ニ飯附スルノ旨酒井左衛門尉忠  
次 大神君ニ告奉ル  
一九日 木曾左馬頭義昌織田信長ノ旗  
下ニ属スルニ依テ信長信忠父子甲信  
兩國ニ近日叢ニテ武田勝頼ヲ討ス  
ト欲ス 大神君又彼国ニ御進發ア  
ルヘニ遠参兩國ノ諸将等兼テ軍用ヲ  
調へ御出馬ヲ相待ヘキノ旨ヲ能催サ



ル既ニ信長信忠父子共ニ甲信ニ葦七  
ニト欲シテ其軍列ヲ定ム駿河口ニハ  
大神君其兵三万五千余騎関東口ニハ  
北條氏政三萬餘騎飛騨口ニハ金森五  
郎八長進三千余騎木曾口ニハ織田信  
忠五万餘騎伊奈口ニハ織田信長七万  
余騎伊奈口ハ東山道第一ノ險難ノ地  
ニシテ容易ク攻入難儀ノ所ニ下条伊  
豆守信氏力族下条九兵衛志ヲ信長ニ  
通シ濃州岩村ノ城至河尻肥後守力軍  
一勢ヲ国中ニ引入レ伊奈ノ城ヲ避クテ渡  
スノ間信長ノ兵力ク勞セズニテ信州  
一ニ入  
一十二日 織田信忠五万余騎ノ軍勢ヲ  
一卒シテ岐阜ノ城ヲ葦シテ土田ニ到ル  
一十三日 信忠高野ニ至ル  
一十四日 信忠其夜軍ヲ岩村ニ陣ス瀧  
川一益毛利河内守此所ヨリ信忠ニ先  
立テ伊奈口ニ赴ク  
然ルニ武田力諸兵或ハ降ヲ乞或ハ敗



走之刺木曾義昌内應スル故ニ拒ム敵

一十六日武田力兵小山ノ城ヲ棄テ甲

一州ニ走ルノ由ニ大神君ニ詮進ス

一十八日大神君師ヲ帥テ濱田ノ城ヲ

御進發有テ掛川ノ驛ニ着御諸士山口

一十九日大神君牧野ノ城ニ御陣座諸

一廿日國吾諸將兵ヲ甲中ノ城ニ發ス守

將依田右衛門信蕃和ヲ請フ甲州ニ走

一廿一日吾兵遠目坂ヲ越テ聖宗ニ陣

一廿二日張ル此日大神君駿府ニ御陣座

一廿三日大神君諸士ニ命テ聖宗ノ

一廿四日城ヲ攻討シメ給フ

一廿七日聖宗ノ城至朝比奈駿河守

大神君ニ降ラント請フ大神君是ヲ

許シ給フニ依テ朝比奈城ヲ避ケテ久

野ニ退ク

釣命ニ依テ松平主殿助家



忠是ヲ送ル

三月大

一朔日 駿州江尻ノ城將穴山 榊雪

陸奥

守 大神君ニ降テ江尻ノ城ヲ避ケ渡

ス是ヨリサキ大神君長坂血鎗九郎

ヲ之テ江尻ノ城ニ赴カシメ梅雪ヲ幕

下ニ招カシメ長坂江尻ノ城ニ待テ留

スル夏七日言ヲ盡シテ諫ルニ依テ榊

雪終ニ御味方ニ属セシト約ス長坂江

尻ノ城ヨリ飯テ此旨ヲ達ス大神君

長坂カ觸敵城ニ入テ遂ニ其事ヲ成ラ

シムル勇謀ヲ褒美セラレ遠州曾我庄

内篠場村石野村料毛村ヲ長坂ニ賜ル

其後榊雪大神君ニ供奉シテ上洛

スルノ暇是ヲ謝シテ長坂ニ良馬ヲ

與フ箕輪鹿毛ト号ス穴山梅雪ハ信

玄カ督ナリ又榊頼カ娘ヲ以テ榊雪

カ子榊千代丸ニ嫁セシト約ス榊頼

カ倭臣等武田左馬助信豊カ賂ヲ受

テ榊頼ヲ諫テ榊雪ニ約スル所ノ娘



ヲ改テ信豊カ子ニ嫁セシム  
謀雪是ヲ怒テ勝頼ニ背テ終ニ  
大神君ニ屬ス

田中望宗ノ兩城及ヒ鞠子ノ城各甲州ノ兵是ヲ守ト云ヘ氏謀雪志ヲ大神君ニ通シ是ヲ謀ルノ故皆降ヲ乞城ヲ

開渡ス榎坂田中ノ城江三枝以テ降ルト諸士ヲ田中ニ避ルニ勝頼テ後甲州長川ニ

依テ劫勢州ニ大神君ニ拜謁ス則テ治命ニ一日大神君牧野右馬允康成ニ命ニ

テ駿州興國寺ヲ守ラシメ給フ康成牧野ノ城ヨリ興國寺ニ移ル

勝頼父子及ヒ信豊諏訪ノ上原ニ屯ス穴山カ叛逆ノ告ヲ聞テ諏訪ヲ去テ僅

ニ免レ新府中ニ入ル是ヨリシテ甲信ノ兵弥信忠ニ降ル者多シ高遠ノ城仁

料五郎信盛カ勝頼是ヲ守テ拒キ戰テ城兵悉ク戰死ス既ニ勝頼新府ヲ避ケテ

小山田兵衛佐カ領所ニ至ラニト欲ス

一三日勝頼妻兒ヲ携ヘ從士五百余人



ヲ卒ニテ新府ヲ出鶴瀬ニ着ク小山田  
兵衛佐志ヲ變ニテ軍士ヲニテ篠子ヲ  
守ラシメ且ツ新領ヲ設ケテ勝頼ヲ拒  
ク勝頼為方ナク田野ニ赴ク是ニ依テ  
後者皆離散ス  
信忠陣ヲ上ノ諏訪ニ移ス  
一四日 穴山梅雪 大神君ニ謁ス太刀  
及ヒ鷹一居馬一足ヲ獻ス此日信長七  
万余騎ヲ卒ニテ安土ヲ發ニテ柏原ニ  
至ル

一五日 酒井左衛門尉忠次本後卒八郎  
忠勝大須賀五郎左衛門康高陣ヲ神原  
ニ移ス  
一六日 信長進テ呂久ノ渡リニ至ル處  
ニ信忠ノ使仁科五郎信盛力首ヲ持来  
ル信長大ニ悦テ則信盛力首ヲ岐阜ノ  
長良河原ニ梟ス其日ハ甚雨ニ依テ岐  
阜ニ滞留ス  
一七日 大神君ノ御軍勢駿州奥津ニ陣  
ス



此日 信忠上ノ諏訪ヨリ甲州ノ府一  
条カ館ニ至テ陣ニ退キ後レ冬ル武田  
カ後卒等ヲ尋搜テ悉ク誅ス  
一八日 大神君奥津ニ御陣座諸卒万座  
ニ死ス  
此日 信長岐阜ヲ發ス  
一九日 大神君万座ニ陣ニ給テ諸卒身  
延ニ進ム穴山楨雪爰ニ出向テ甲州表  
ノ案内者トシテ大神君先驅ニ加テ  
一文殊堂市川口ヨリ攻入ル甲州ヨリ註

進ニテ云ク勝頼戦力ハスニテ退去ス  
ト云ク  
一十日 吾兵市川ニ至ル  
一十一日 田中ノ奥天目山ノ郷民等蜂  
起ニテ勝頼ヲ攻ム信忠ノ臣瀧川左近  
將監一益川尻肥後守五千余騎ヲ卒ニ  
テ勝頼カ居所ヲ搜求テ田野ニ攻入テ  
是ヲ圍ム勝頼父子及ヒ土屋惣藏ヲ始  
僅ニ四十余人爰ニ苦戦スルト云ヘ氏  
多勢競ヒ攻討ノ間勝頼十<sub>七</sub>歳<sub>三</sub> 信勝<sub>貳</sub>



十六 屢戰于終ニ死ス土屋惣藏于七取 奮戰ニ于死ス其外阿部加賀守温井常 陸介秋山紀伊守金丸助六小原丹波守 同下總守小見山内膳正岩下惣太郎原 下総守多田文藏林覚和尚圓首座等四 十一人皆死ス瀧川一益勝頼父子人首 ヲ持シテ信忠ノ陣ニ遣ス信忠大ニ悦 テ脇指光吉良馬鹿毛黄金五百兩ニ感状 ヲ副テ瀧川ニ賜ル 此日大神君師ヲ帥テ甲州ノ府ニ着

御信忠ニ御對顔ソレヨリ信州諏訪ニ 御叢向アリ 一十三日大神君諏訪ヨリ御帰洛ニ赴 七給フ 此日信長信劬稱羽根ニ至ル于取信 忠ノ使者園加牟次桑原助太郎勝頼父 子カ首ヲ持參ス信長是ヲ見テ曰ク信 忠軍ヲ出シテ僅ニ三十日甲信兩國ヲ 卒ク剩勝頼父子カ首ヲ得ルノ奇ナリ 卜謂ツヘシト大ニ悦テカ荒波良馬



枚屋鹿毛

暑衣百ヲ信忠ニ送り黄金百

兩馬一匹ヲ其使南条原ニ賜リ福富卒

左衛門ヲ兩使ニ相副遣ハシテ大敵速

成ノ退治感悦ノ旨其意ヲ述タス

一十四日信長陣ヲ信州飯田ニ移シ膝

頼父子力着ヲ此所ニ集ス其後膝頼ニ力

遣是ヲ獄曝スニ

此日大神君ノ御家人松平左近太夫

直乘卒去ス十丁取三歳三嫡子源次郎于取ニ八

和泉守家督ヲ継テ參州大給ヲ領ス

一十七日信長上ノ諏訪法養寺ニ陣ス

其兵十万余騎ナリ信長諸兵ヲ勲勞ヲ

稱シ信州築麻安曇ニ郡十木曾兩郡ヲ

以テ木曾義昌ニ賜ル穴山楳雪小笠原

掃部助ニ駿甲兩州ノ領地ヲ安堵セシ

ム

此日大神君信長ニ謁セシトテ此地

ニ至リ給フ

信長甲信兩州ノ群士ヲ謀テ吾旗下ニ

属スル者ハ本領安堵スヘキノ由ヲ觸



シム武田力家人等是ヲ信ニテ降ヲ請  
フテ来リ集ル者多シ然ルニ信長武田  
力家人ヲ悉ク殺戮又其中ニ一条信龍  
ハ市川ニテ大神君是ヲ誅ニ給フ依  
田右衛門佐ハ駿州田中ノ城ニ在テ是  
ヲ堅ク拒テ守ル甲州ノ兵守ル所ハ駿  
州ノ數城皆大神君ニ降ヲ乞退キ去  
ル依田右衛門佐ハ田中一城ニ残テ大  
敵ヲ拒クハクニ非ス是ニ依テ前月廿  
一日田中ノ城ヲ大久保七郎右衛門忠世

ニ避テ渡ニテ退ク于貳大神君山本  
帶刀成氏ヲシテ旗下ニ屬ニテ忠ヲ勵  
ムヘキノ旨命有テ召ト云ヘ氏依田  
其命ニ従カハス勝頼力存ニ未其實  
否ヲ知ヌト謂テ忠義ヲ守テ信州ニ走  
ル既ニニテ勝頼父子滅亡ノ後信長殘  
黨ヲ尋搜テ是ヲ殺ス依田ヲ捕テ誅ス  
ヘキノ旨其旨へアリ于貳大神君ヨ  
リ御使ヲシテ市川ノ御陣ニ招カレシ  
メ給フ依田石ニ應ニテ竊ニ市川ニ參



侯之ヲ大神君ニ謁ニ鈞命ニ依テ山路ヲ凌テ僅ニ至後六人遠州ニ股ノ奥小川村ニ脱レ爾居ス  
一十九日信長東海道ヲ經テ安土還ラントス故ニ大神君駿遠ノ兩國ノ地ニ營ヲ結ルニ至テ  
一廿一日北條氏政力使者上ノ諏訪ニ来テ連成ノ平均ヲ祝ニテ太刀一腰馬一匹黄金千兩江州酒十樽白鳥十箇漆桶二十荷ヲ信長ニ獻ス

一廿三日信長奥國ヲ諸將ニ割興フ駿河國ヲ以テ大神君ニ進セラル河尻肥後守ニ甲州半領及ヒ信州諏訪郡森庄藏長一ニ信州ノ内吏級高井水内坦科四郡毛利河内守ニ信州伊奈郡森蘭丸ニ濃州岩村ノ城采地五万石ヲ授ク父可成力忠死兄長一力戦功ヲ褒ニ且蘭丸力才有ルニ依テ也穴山栞雪ニ甲州兩郡ヲ加賜フハ山ノ元道家彦八郎ニ信州小諸瀧川左近將監一益ニ上州



二加へて信州佐久小縣二郡ヲ賜テ信  
長謂テ曰ク汝ヲ以テ関東ノ管領職ト  
ス若シ思慮ニ及ハサル事有ハレバ大神  
君ノ旨ヲ請テ是ヲ沙汰スヘシ一益拜  
謝ス信長又脇指并良馬ヲ一益ニ賜リ  
関東ノ制法十五箇條ヲ定テ一益ニ授  
テ上州鹿橋ノ城ニ居ラシメテ其ノ  
一廿四日大神君諏訪原ヨリ市川ニ歸  
リ給フ

一二日信長信忠ヲ之テ法養寺ニ留メ  
之メ富士一覽ト云テ法養寺ヲ出テ  
个原ニ至ル  
一三日信長新府古府ヲ經歷シテ駿州  
ニ赴キ富士ヲ覽ニト欲ス  
是ニ於テ甲州惠林寺ニ佐々木次郎ヲ  
隱ス罪ニ依テ信忠諸兵ヲ着遣シ廊下  
堂舎ニ火ヲ放テ僧徒等ヲ焚殺ス  
一十一日信長本巢ニ至ル我兵山路ヲ  
衛護ス



此日森庄蔵長一川中島ヲ築クノ所  
ニ一揆蜂起スト云ヘ氏長下悉ク賊徒  
ヲ討捕ル

一十二日信長本巢ヲ獲ニテ富士山ノ  
周覽ニ其夜大宮ニ旅宿ス大神君此  
所ニ茶店ヲ構ヘ信長ヲ饗食ニ給フ于取  
信長刀一字脇指先声良馬三匹ヲ大神  
君ニ進セラル大神君御領国ノ内駿  
遠参ノ三国ノ向新橋ヲ修ニ路次ヲ警  
固セシメ信長ヲ饗食ニ給フ

一十三日信長大宮ヲ出テ江尻ノ驛ニ  
至ル

一十四日信長駿府ニ至ル大神君假  
屋ヲ構ヘテ一献ヲ進メ給フ信長田中

ニ着ク

一十五日信長掛川ニ至ル  
一十六日信長天龍川ニ至ル大神君  
ヨリ小栗仁右衛門浅井六之助ヲ奉行  
トシテ船橋ヲ設ケ旅館ヲ修ニテ是ヲ  
待ツ信長悦テ小栗浅井兩人ニ黄金ヲ



此日信長濱松ノ城ニ着ク酒井左衛門尉忠次大神君ノ命ヲ奉テ是ヲ饗應ス信長黄金二百兩及ヒ刀類ヲ忠次ニ賜フ且ツ忠次ニ謂テ曰ク大神君ノ領駿州蒲原ヨリ爰ニ至テ山路船橋等ノ警衛何ヲ以テ是ヲ謝セシヤ我今天下ニ威ヲ震フ事累年大神君ノ武威ニ依ルト感稱ス其後菅九右衛門ニ令テ曰ク東國ヲ征セニ為ニ去年

ヨリ粟二万石ヲ積倉ス今武由巳ニセフ北條吾下風ニ懐ラ且ツ大神君東國ヲ制シ給ヘハ何ソ又予戈ヲ用ヒ糧ヲ荷フ事有ニヤトテ二万石ノ粟ヲ以テ大神君ノ家老ニ領賜フ夜深更ニ及フテテ忠次ト閑話ス  
一十七日 信長吉田ノ城ニ至ル  
一十八日 信長池鯉鮒ニ至ル  
一廿一日 信長安土ニ帰ル  
五月小



一九日 大神君今度駿州ヲ得給フ謝礼  
ト云テ濱松ノ城ヲ御首途有テ安土ニ  
赴カセ給フ穴山楳雪 大神君ニ從ヒ  
奉ル  
一十一日 大神君參州岡崎ノ城ニ着御  
招平主殿助家忠岡崎ニ參候云テ城ニ  
登テ 大神君ニ謁ス  
一十三日 大神君岡崎ノ城ヲ出御安土  
ニ赴カセ給フ其道信長ノ領内高野藤  
藏長坂助一郎山口太郎兵衛ヲ云テ路

次ヲ警固ニ断橋ヲ修テ御齋館ヲ設ケ  
テ 大神君ヲ待請ニ奉ル  
一十五日 大神君安土ニ着御大窪坊ニ  
御寄宿アリ信長明智日向守光秀ヲ云  
テ饗應ニ奉ル光秀俄ニ假屋ヲ構ヘ金  
銀ヲ以テ饗膳ヲ飾リ義ヲ尽ス于貳羽  
柴秀吉備中ノ國ニ在テ毛利輝元ト對  
陣ニ援兵ヲ信長ニ乞ヒ信長池田信輝  
父子明智光秀長岡共一郎忠興高山右  
近中川瀨兵衛塩川吉太夫等ヲ云テ備



中ノ国ニ赴カシメ秀吉ヲ救ハニト欲  
シテ他人ヲシテ先秀ニ代テ大神君  
ヲ饗セシム  
一十九日 信長安土見寺ニ於テ  
大神君ヲ遊慰シテ舞太夫幸若猿樂太  
夫梅若ヲ召テ其興ヲ尽サレ大神君  
ノ家臣等揆敷ニ坐ス高穴山榎雪モ伺  
候ス  
一廿日 信長高雲寺ノ館ニシテ大神  
君ヲ饗ス信長自ラ配膳シ榎雪及ヒ

大神君ノ家臣數輩ニ至ルマテ信長手  
自ラ肴藪ヲ賜ル信長大神君ノ御手  
ヲ挽テ殿守ニ登テ是ヲ歴覽シテ本座  
ニ還リ給ヒ夜ニ入テ退出シ給フ  
ハ雪大 神君 信長 御對 座 取  
棟 雪 其 次 二 酒 井 左 衛 門 尉 其 次 二 高 穴 山  
伯 耆 守 其 次 二 本  
多 豐 後 守 等 十 一 本  
一廿一日 大神君安土ヲ出御洛ニ赴カ  
セ給フ信長長谷川竹丸ヲ以テ案内ノ  
為ニ相副ラレ此次テニ泉州堺ヲモ御  
周覽アルヘキノ旨也織田七兵衛尉信



隆丹羽五郎左衛門尉長秀信長ノ命ヲ  
蒙テ大神君ニ先立テ大坂ニ往テ旅  
店ヲ修ス

一廿六日 明智日向守光秀坂本ヲ獲テ  
テ丹波ニ赴キ龜山ノ城ニ入ル

一廿七日 光秀愛宕山ニ登テ西ノ坊ニ  
一宿ス

一廿八日 光秀祈願ノ事有ルニ依テ紹  
巴ヲ招テ百韻ノ連歌ヲ興行シテ光秀

龜山ニ皈ル

一廿九日 信長安土ノ城警衛トシテ津

田源十郎加藤兵庫助野々村左衛門

遠山新九郎蒲生左兵衛助雲林院出羽

守等ヲ留置近習僅ニ百五六十騎ヲ卒

ニテ入洛ニ假リニ本能寺ニ居ル信忠

ハ妙覺寺ニ寄着アリ

六月大

一朔日 明智日向守光秀龜山ノ城ニ在

テ明智左馬助同次右衛門齋藤内蔵助

藤田傳五郎溝尾膝兵庫等ニ密ニ隱謀



ノ旨ヲ語ル各意ニ應セスト云ハ氏事  
急ニシテ此企既ニ決ス此上ハ諫ルニ  
及ハスト謂テ皆同意ス光秀悦テ龜山  
ヲ薙ス  
一二日黎明明智光秀兵ヲ卒ニテ洛ニ  
入本能寺ヲ圍テ攻撃シ森蘭丸内外ヲ  
見テ入テ信長ニ告テ云久光秀力圍ル  
所ナリ信長自テ弓ヲ彎キ矢ヲ發テ是  
ヲ拒ク奔堂警衛ノ軍士方丈ニ馳加リ  
拒キ戦フト云々氏逆徒奮猛勢夥敷競

ヒ攻ルノ尙拒ク事能ハス信長疾ヲ蒙  
テ自殺ス于取見院執森蘭丸ハ明  
智力從士四天王新左衛門力為ニ討タ  
ル其外、從卒皆戦死ニテ寺中ニ火ヲ  
放シ信忠ニ條、妙覺寺ニ在テ本能寺  
ノ騷動ヲ痛テ駕ヲ馳ス于取所司代村  
井春長軒父子三人遁ニテ信忠ニ逢テ  
告テ云ク光秀信長ヲ弑シ本能寺ヲ放  
火ス請フ連ニ二條ノ宮陽光院皇居ノ  
路ニ入テ敵ヲ支ヘラルヘシ信忠是ヲ



聞テ二條ノ宮ニ入テ親王及七皇子ヲ  
禁中ニ移シ奉ル諸士信忠ニ媚テ云ク  
敵ノ猛勢利ニ乘シテ攻撃タハ我小勢  
立所ニ雌伏スヘシ連ニ兵ヲ引テ安土  
ニ至リ重テ大軍ヲ整テ賊徒ヲ撃タハ  
利有ヘシ諫ケレ氏信忠曰ク賊已ニ計  
策ヲ成シテ宇治勢田ノ通路ヲ塞クハ  
之一旦此所ノ難ヲ免ルト云ヘ氏終  
ニ死地ニ陥ルヘシ死ヲ郊原ニ暴サ  
ヨリハ死ヲ守テ道ヲ善クセシニ力

シトテ諸士ノ旨ニ應セズ村井及ヒ毛  
利新左衛門福富平左衛門菅谷九右衛  
門等皆其言ヲ然リトス午ノ刻ニ至テ  
光秀一万余騎ヲ率シテ二條ノ兵ヲ圍  
ム信忠ノ從卒勇ヲ震ヒ術ヲ尽ス拒キ  
戰フ光秀指揮シテ二條ノ宮ノ後ナル  
近衛殿ノ屋ノ上ニ軍士ヲ登セ矢ヲ發  
テ火炮ヲ放テ宮中ヲ燒ノ向是ヲ拒ク  
事ヲ得ス信忠終ニ自殺ス法于取大世院  
巖仙後士六十余人或八十余人皆死ス



大神君泉州ノ堺ニ御旅館アリ本多平  
八郎ヲ御使トシテ今度ノ饗應ヲ信長  
ニ陣謝セシメ給フ本多平命ヲ奉テ京  
洛ニ赴ク于取茶屋四郎次郎信長父子  
生害ヲ大神君ニ告奉ル下テ堺ニ赴  
ク途ニシテ本多平逢フ四郎次郎具ニ  
此旨ヲ本多平告ク本多平驚テ四郎次郎  
ヲ伴ヒ馳歸ル大神君ハ是ニ先達テ  
信長父子殺害ノ事ヲ聞玉ヒ明智退治  
ノ為ニ森口迄御出馬アリ此所ニテ本

多拜謁シ其旨ヲ言上ス且ツ諫テ云ク  
微勢ヲ以テ大敵ヲヒス事難カルヘシ  
唯ニ其身ヲ棄ルノニ非ス却テ世人  
ノ為ニ謀ノ拙事ヲ譎ラルヘシ一度岡  
崎ニ飯リ重テ義兵ヲ起サハ賊徒五所  
ニ獲ツヘシ酒井石川手ヲ拍テ欲シテ  
云ク吾儕死ヲ決スル計ニテ曾テ遠キ  
慮ニ及ハス則本多力言ヲ大神君ニ  
言上ス大神君ノ曰ク吾又此思慮ナ  
キニ非ス然レ氏參劔迄路次一揆是ヲ



遮ラハ匹夫ノ為ニ命ヲ殞サニ事素懐  
ニ非スト仰アリケレハ長苔川竹丸進  
テ云ク此邊ニハ信長ノ恩ヲ受タル者  
多ケレハ我謀ヲ以テ恙ナク御帰國成  
ニ奉ルヘニトテ津田ヘ使ヲ遣ニケレ  
ハ郷導者トシテ士二騎来リケルヲ導  
キトナサレ大和路ヨリ山城ヘ出テ宇  
治田原ヲ經テ通り給フ于取侍供奉ノ  
輩ニハ酒井左衛門尉石川安藝守石川  
左衛門太夫松平源七郎康忠高力權左  
衛門本多藤四郎高木筑後守本多平八  
郎柳原小平太太久保新十郎菅沼藤藏  
久野新兵本多百助阿部善九郎牧野半  
右衛門本多佐左衛門三宅弥次右衛門  
太久保次右衛門服部半藏渡邊半藏森  
川金右衛門酒井佐右衛門多田三吉花  
井庄右衛門御小姓ニハ鳥井松丸井伊  
万代内藤新五郎都築龜藏松平十三  
郎菅沼小太膳永井傳八郎長田瀨兵衛  
祐下小源太都築長三郎三浦龍青生長



三郎等ナリ宇治田原ニテ山口云蓄御  
膳ヲ進テ饗應ニ奉ル夫曰リ山田村ニ  
赴セ玉フ吉川主馬助其子次太夫此所  
ニ来テ郷導ニ奉ル  
嚮ニ大神君大和路へ赴キ給テ  
大貳十市云蓄カ所へ御使ヲ遣サレ  
ハ吉川主馬助其子次太夫山田  
村ニテ御連ニ出ス夫ヨリ供奉シテ  
長尾村ハ八幡山ニ於テ云蓄饗應ニ  
奉ル則吉川父子ニ御盃ヲ賜テ且御

馬ヲ下サレ是ヨリ石原村ニ至リ給  
テ貳ニ石原源太ト云フ者大神君  
ヲ襲ヒ奉ラントテ數百人ヲ率ニ要  
路ヲ塞ク吉川父子進テ石原ヲ追拂  
フト云ハ氏一揆ハ兵先へ廻ル事モ  
有ヘシトテ吉川父子木下ト云所ニ  
テ立歸脇道ヲ警固ス此所ニテ穴山  
榎雲後ルニ依テ石原カ兵共是ヲ討  
捕ル大神君ハ難ナク高見峠ニ至  
リ給テ此所ヨリ伊賀ノ者脇導ニ奉



ルニ依テ吉川父子暇ヲ賜テ飯ル御  
長カク拜受ス且ツ命有テ曰ク嚮  
ニ石原カ一揆ヲ追散スルノ取柏ノ  
木ノ纏ヲ持セ大和ヲ得ルノ間柏ノ  
木ヲ家ノ紋ニ改スヘト也依之今  
ニ至ル迄柏ノ折枝ヲ紋トス吉川父  
子高見峠ヨリ飯テ石原大神君ヲ  
襲ヒ奉テト企テ旨ヲ玄蕃ニ告ル  
玄蕃怒テ吉川主馬助カ父善兵衛ニ  
命シテ父子三人石原カ所ニ押寄即  
取ニ討捕ル翌日吉川父子吉村未之  
助ト云者ニ源太カ首ヲ持セ伊賀ノ  
国琴弾村ニ於テ大神君ノ實檢ニ  
備ヘ奉ル大神君太夕是ヲ感稱シ  
給フ

江州信樂ニ至テ衆議シテ云ク此地ハ  
多羅尾カ所領ナリ彼カ心計難シ長吉  
川進テ云ク多羅尾ハ我カ知音ナレハ  
我往テ彼カ志ヲ試シトテ則多羅尾  
カ宅ニ至テ是ヲ説ク多羅尾四郎兵衛



大ニ喜テ大神君ヲ私亭ニ迎ヘテ厚  
ク饗之奉ルテ多羅尾父子鹿伏免路奉ル  
一説ニ云ク山口玄蕃ハ多羅尾四郎  
兵衛力三男ナリ是ニ依テ玄蕃先達  
テ使テ馳セ大神君ヲ郷導ニ奉ル  
少旨ヲ告ク于辰四郎兵衛疾病アル  
ニ依テ其子佐兵衛ヲ御迎下ニテ是  
ヲ出ス失ヨリ白子ニテ佐兵衛玄蕃  
供奉ス此所ニテ両士ニ暇ヲ賜テ御  
褒義トシテ佐兵衛ニ御力先玄蕃ニ

御力先ヲ下サル  
夫ヨリ伊賀路ニ赴キ給フ此所ハ地侍  
等出テ饗導ニ奉ル此年尾州鳴海ニ召  
出サル是ヨリ拓植村ニ兵ヲ給フ  
テ拓植三之允ヲ召出サレ郷導スヘキ  
ノ旨ヲ命セラル三之允命ニ應ニ  
其村ノ人民ヲ催ニテ鹿伏免路ニテ送  
護ニ奉ル此所ニテ三之允其外ノ郷民  
等ニ暇暇ヲ賜ル三之允朱地丸左衛門  
卜云者ヲニテ白子ニテ供奉セシム其  
後



九左衛門召出サレテ御番ニ  
仰付テ爾拓植九左衛門  
此役ニ大神君宇治川ニ至リ給テ  
川ノ浅深誰カ見計ルヘキト命有ケレ  
ハ酒井左衛門尉忠次進テ云ク何ソ他  
ヲ求メニヤ我案内イタスヘキトテ川  
邊ヲ走廻リテ小船一艘ヲ搜出シテ献  
ス大神君是ニ乗テ川ヲ涉給ス酒井  
先キニ進テ馬ヲ川水ニ乗入ル忠次カ  
以馬云馬ノ鳴供奉ノ諸士忠次ニ續テ川ヲ  
涉ル

又曰大神君宇治田原山中ニ赴セ給  
フ脱服部別當真信ヲ召出サレ郷導  
ヘキノ旨ヲ命セラル真信信樂ニテ送  
リ奉ル此所ニテ御褒美トシテ御服指  
次表國國ヲ賜フ其後召出サレ濱松ニテ勤  
仕ス  
高曰大神君伊賀路ニ至給フ脱和田  
八郎定教伊賀守忠ヲ尽スニ依テ御誓  
詞ヲ下サレ其後參州吉田ニ於テ召出  
サル



又曰 大神君伊賀路ニ至給フ取伴若  
狹守疾有ニ依テ從卒ヲ之テ大神君  
ノ供奉夕ラシム路次中一揆等ヲモ防  
クヘキノ旨ヲ令ス且言上之テ云ク山  
岡黨ト協同シ忠義ヲ尽スヘシトナリ  
若狹守ハ信長ノ從士ニ之テ安土ノ城  
ニアリ信長殺害ノ事ヲ聞テ蒲生賢秀  
ニ属シテ去ル  
云曰 勢田ノ城至山岡義作守其弟對  
馬守勢田ヨリ来テ山中ヲ鄉導シ奉ル  
ヘキノ旨ヲ達ス 大神君則山岡兄弟  
ヲ導キトナサレ勢田ヨリ信樂ニ至リ  
給フ取伴郷ノ一揆起テ先路ヲ遮ル事  
數度ニ及フト云ヘ氏山岡兄弟是ヲ追  
拂テヲトキ峠ニテ供奉ス此所ニテ飯  
暇ヲ賜リ山岡兄弟力忠功ヲ褒シ給フ  
又曰 夕此度路次中渥義久兵衛友重所  
ニ於テ忠功アリ故ニ岡崎ノ城ニ着  
御ノ取御帷子御羽織ヲ賜フ是ハ  
大神君路次中着ニ給フ所也



穴山梅雲 大神君ニ供奉ニテ泉州堺  
ニ在リ信長生害ノ後 大神君伊賀路  
ヲ相伴ルヘキノ旨命有リト云ヘ氏信  
州ノ順路ニ非スト謂テ後力ハスニテ  
山城ノ宇治田原ニ至テ終ニ郷民ニ殺  
ル此日未ク刻信長殺害ノ事安土ノ城  
ニ建ス留守護ノ士驚テ謀ヲ失ス然レ  
氏蒲生左兵衛佐賢秀諸士ヲ勵ニテ堅  
ク守ル夜ニ入テ山崎源太左衛門巳力  
家ヲ燒テ山崎ノ城ニ破ル于時賢秀此  
城久シク保ツヘカヲサル事ヲ慮テ先  
一信長ノ諸子及ヒ兒女ヲ日野谷ニ隠シ  
居シム賢秀使テ馳テ其男忠三郎氏郷  
ニ告ク氏郷馬乘ヲ以テ賢秀ヲ迎フ  
一三日 蒲生左兵衛佐賢秀本村次郎左  
一衛門ヲ以テ安土ノ城ヲ守ラシメ又早旦  
竊ニ日野谷ニ入ル  
此日 大神君勢州白子ニ至リ給フ長  
田平右衛門重元其弟喜八郎ニ令ニテ  
舟ヲ舩ニ此所ニ至ラシム 大神君是



一 乘り給フテ御帰国ニ赴カニ給フ  
一 或説ニ云ク白子ニ於テ角屋七郎力  
一 船ニ大神君乗り給フ  
一 又曰那古ヨリ御船ニ乗セ給フ  
一 四日大神君大濱ニ御着府有テ長田  
一 率右衛門力亭ニ渡御アリ参州少諸士  
一 大濱ニ参候ニテ大神君ニ謁シ御帰  
一 國ヲ賀シ奉ル  
一 五日大濱ノ郷ヨリ岡崎ノ城ニ渡御  
一 アリ参劔外諸士群参ス伊勢尾張兩國  
一 少士大神君ニ志ヲ通スルノ輩各使  
一 ヲ岡崎ノ城ニ馳テ大神君ノ旗下ニ  
一 属セニ事ヲ請フ  
一 六日大神君岡部次郎右衛門正綱ニ  
一 御書ヲ賜ル御了各別  
一 八日大神君近日京都ニ御進發アリ  
一 参州ノ諸士軍用ヲ調ヘ御出馬ヲ相待  
一 ヘキノ旨ヲ觸催サル  
一 十日明後十二日大神君明智光秀  
一 御退治トシテ洛ニ御進發有ヘキノ旨



ヲ諸將ニ命セラル  
一十二日 大神君今日ノ御出馬故有テ  
十四日 御延引アリ  
一十四日 大神君岡崎ノ城ヲ御進發有  
テ京都ニ赴セ給フ諸兵鳴海ニ陣ス  
明智光秀信長父子ヲ弑シテ後威ヲ洛  
中ニ震ヒ所司代ヲ置テ洛中ノ地子錢  
ヲ許シ洞堂銀ヲ五山及ヒ大徳妙心兩  
寺ニ寄進ス、光秀京都ヲ發シテ安土ニ  
赴ク勢田ノ城至山岡義佐守景隆其弟  
對馬守陣ヲ張テ勢田ノ通路ヲ指塞ク  
ノ間光秀使ヲ山岡力許ニ遣シテ汝等  
兄弟光秀ニ屬シテ忠義ヲ尽サハ厚ク  
是ヲ賞スヘシ此旨同意タルニ於テハ  
妻子ヲ質ニ渡スヘキノ旨ヲ告ル山岡  
兄弟元來義士タルニ依テ信長ノ厚恩  
ヲ思テ光秀ニ從カハス光秀力使ヲ殺  
シテ勢田ノ橋ヲ焚キ落シ軍ヲ調ヘ光  
秀ヲ待ツ光秀山岡兄弟力武勇ニ怒テ  
勢田ヲ退キ坂本ノ城ニ入ル明智孫平



次留テ舟ニ乗リ湖水ヲ涉リ安土ノ城  
ニ往カント欲ス山岡義隆守景隆其弟  
對馬守兵ヲ勢田ノ城ヨリ發シテ湖水  
ニ戰テ大ニ勝ツ然卒次利ヲ失テ引退  
ク山岡兄弟微勢ニシテ勢田ノ城ニ在  
テ大敵ヲ拒キ難キニ依テ終ニ勢田ノ  
城ヲ避ケテ要害ニ據テ山中ニ屯ス  
明智光秀一旦坂本ノ城ニ退クト云ヘ  
氏山岡景隆勢田ヲ去ルニ依テ光秀裕  
本邊ノ人夫ニ謀テ焚キ落シタル橋ヲ

補續シテ勢田ヲ經テ光秀終ニ安土ノ  
城ニ入テ金銀財宝ヲ殿至ヨリ出シテ  
從卒等ニ割典ハ制法ヲ定メテ明智左  
馬助ヲシテ安土ノ城ヲ守ラシム荒木  
山城守ヲシテ佐和山ノ城ヲ守ラシメ  
光秀兵ヲ卒ニテ洞介峠ニ屯ス  
信長生害ノ取羽柴秀吉ハ備中ノ國ニ  
在テ毛利輝元ト對陣ス于取六月三日  
ノ夜ニ入子ノ刻ニ及テ長苔川宗仁カ  
使京都ヨリ使ヲ馳テ告テ云ク昨二日



ノ朝信長父子明智日向守光秀力為ニ  
弒セケル秀吉聞テ大ニ驚ク然レ氏敢  
テ情ヲ動サズ秀吉毛利ト和ヲ調ヘ同  
六日備中ヲ發シ沼ノ城ニ至ル甚雨ニ  
依テ一日此所ニ滞留ス同八日姫路ニ  
着同十一日厄介崎ニ至ル爰ニ於テ秀  
吉髮ヲ断ツ同十二日富田ニ至リ三七  
信孝信長ノ男ニ謁見シ秀吉頓首シテ紅  
淚ニ沉ム同十三日秀吉明智光秀ヲ討  
ニ卜欲シテ軍列ヲ定ム既ニシテ秀吉

軍ヲ山崎表ニ發シテ光秀卜戰フ光秀  
力岳大ニ敗續シテ光秀勝龍寺ニ逃ク  
入ル秀吉モ又勝龍寺ヲ圍テ攻ニ卜欲  
ス光秀勝龍寺ヲ遁出テ潛ニ坂本ノ城  
ニ赴カニ卜欲シテ伏見テ經テ小栗柄  
ニ至ル野伏峰起シテ終ニ光秀ヲ殺ス  
于取光秀後卒其首ヲ斬テ是ヲ溝中ニ  
藏シテ逃テ去ル明智左馬助安土ニ在  
テ味方ノ敗亡ヲ聞キ安土ノ城ヲ焚テ  
坂本ノ城ニ入リ光秀力子六人ヲ殺シ



テ已モ亦自殺ス同十四日秀吉三井寺  
ニ至ルノ處ニ村井春長軒力家人光秀  
力首ヲ溝中ヨリ搜出シテ持来ル秀吉  
悦テ杖ヲ以テ其首ヲ打ツ光秀力屍ヲ  
求テ是ヲ縊キ栗田ニ磔ニス  
一十七日大神君ノ臣酒井左衛門尉忠  
次松平左殿助家忠進テ津島ニ陣ス  
一十九日羽柴秀吉使ヲ馳テ大神君  
ニ告テ曰ク逆徒光秀ヲ誅シ殘黨ヲモ  
悉ク退治シ上方一同ニ平均スルノ間

大神君御凱旋有ルヘトナリ  
一廿一日大神君尾州ヲ出テ御帰國ニ  
赴セ給フ  
秀吉丹羽長秀池田勝入等卜議シテ信  
忠ノ息三法師ヲ以テ信長ノ後嗣トシ  
テ且關國ヲ分ツ尾張ハ信雄美濃ハ信  
孝丹波ハ秀吉近江ノ長濱ハ勝家大坂  
及ヒ厄介崎兵庫ハ池田父子若扶及ヒ  
近江高橋石賀二郡瀧川左近將監一益  
上リ坂橋ヨリ坂橋秀吉三法師ヲ以テ安土ノ城



ニ居ラシメ長谷川丹波守前田玄以ヲ  
シテ是ヲ調護セシム近江三十万石ヲ  
以テ厨料トス三法師幼稚ノ向信雄ヲ  
シテ事ヲ振セシム  
信長生害ノ告ヲ聞テ甲信兩國ニ在テ  
城ヲ守ル信長ノ從士等森庄藏八川中  
嶋ヲ退キ道家彦八郎ハ少諸ヲ去ル毛  
利河内守ハ伊奈ヲ退テ各京都ニ逃ケ  
上ル甲州ノ府ニ在テ是ヲ守ル川尻肥  
後守カ從卒等上方ノ變ヲ聞テ皆離散

ニ殘兵僅ニ二十余人川尻モ既ニ甲府  
ヲ棄テ京都ニ赴カント欲ス國人皆川  
尻カ日比威ヲ恣ニスル事ヲ惡ニテ此  
貳ニ及ヒ是ヲ殺サント催ス于貳  
大神君本多百助名藏紀八郎ヲシテ甲  
州ニ赴カシメ信長ノ生害ヲ知ラセ且  
川尻カ安否ヲ向給フ國人川尻ヲ殺サ  
ントスレ氏大神君ノ怒川玉ハニ事  
ヲ恐テ猶豫ス于貳浮言有テ云ク本多  
國人ト共ニ川尻ヲ殺サニ事ヲ測ルト



爾テ川尻倫ニ奉多カ臥床ニ入テ是ヲ  
刺殺ス國人敗ヲ得テ大ニ喜ヒ兵ヲ舉  
テ川尻ヲ亡ス川尻カ首山縣カ家人ニ  
并弒一郎是ヲ獲タリ川尻甲府ニ在テ  
先方ノ士ヲ親交セサルカ故也先日  
大神君本多弒八郎ヲ御使トシテ依田  
右衛門佐ニ命有テ曰ク汝速ニ甲州ニ  
入テ舊好ノ士ヲ相催シ其勢ヲ合テ軍  
忠ヲ勵ムヘキル旨ニ台命ヲ蒙リ則依  
田甲州ニ發シテ柏坂峠ニ旗ヲ建テ國

中ノ士ヲ招ク横田甚石衛門是ニ應シ  
テ最初ニ來ル是ヨリ甲州ノ士來リ集  
ル者千余人ニ及フ依田其兵ヲ携ヘテ  
小諸ノ城ニ飯ル  
甲斐信州上野ニ留テ城ヲ守ラシム  
ル信長ノ從士等城ヲ棄テ京都ニ上ル  
是ニ依テ此三個國空國ト成テ其至大  
ニ故ニ隣國ノ諸將是ヲ伺フ長尾景勝  
兵三千余人ヲ率テ信州ニ軍ヲ出シ  
テ川中葛ヲ得ル北條氏直ハ嚮ニ瀧川



左近將監一益卜戰テ利アリ其勢ニ乘  
テ信甲兩地ヲ并吞セシト欲シテ四万  
余騎ヲ卒ニテ碓日峠ヲ踰ヘ信州佐久  
郡ニ葦向スル真田安房守北條三心服  
セスト云ヘ氏直大軍ヲ率テ至ルヲ  
以テ北條力旗下ニ属シテ忠ヲ尽サニ  
卜請フ氏直喜テ真田ニ對面ス真田力  
云ク氏直ノ容貌ハ武田勝頼ニ相似タ  
リ恰モ舊主ヲ拜スル力如シトテ啼泣  
ス氏直真田力言ヲ信シテ涙久シ是ヲ特

ム子取淳言ニテ云ク上杉景勝ハ大神  
君卜志ヲ通シ越後ノ岳ヲ攀テ氏直力  
復ヘヲ絶ニト欲ス是ニ於テ北條力一  
族家臣等商議ニテ上杉ヲ支ヘニ者ヲ  
擇フ氏直力云ク真田然ルヘシト有ケ  
レハ衆人皆是ニ同ス則真田力令ニテ  
汝居城ニ飯テ上杉ヲ支ヘ備ヲナスヘ  
シト也其外甲州ノ士大村三右衛門同  
伊賀守ヲ首將トシテ一揆ヲ催シ北條  
ニ志ヲ通シ秩父新太郎氏康軍勢ヲ甲



州ニ引入レニト約ヲ定ム是ニ依テ秩  
父新太郎ハ苜坂口ヨリ兵ヲ甲州ニ發  
シ北條左衛門太夫ハ八千余騎ヲ卒ニ  
テ郡内口ヨリ攻入ラニト欲シ北條安  
房守七千余騎ニテ惠林寺筋ヨリ菱向  
セニト催ス大村三右衛門ハ笛吹川ノ  
邊ニ陣ニテ秩父カ来ルヲ待ツ于取樋  
口ノ某ト云フ者大神君ニ返忠ヲ云  
テ竊ニ此由ヲ告ル是ニ依テ大神君  
ノ命ヲ奉テ穴山カ士穴山謀雪城州三

皆是ヲ穴山衆ト稱ス有泉大學助穂坂常

陸介連ニ笛吹川ニ兵ヲ發ニテ大村ヲ  
攻撃ツ一撥ノ徒黨等大ニ敗セズ穂坂  
有泉悉ク是ヲ追ヒ討ツ秩父新太郎武  
州甲斐ノ境苜坂口ニ至テ出張スルト  
云ハ氏大村カ一味ノ賊徒等悉ク擊捕  
ラル、向兼テノ計略相違スルニ依テ  
苜坂口ヨリ軍ヲ返ス大神君有泉穂  
坂カ速成ノ軍功ヲ褒セラレ御感状ヲ  
兩輩ニ賜ル御書別大村カ隱謀ヲ許人



樋口ノ某此忠ニ依テ大神君石テ御  
家人ニ属ス  
大村退治有テ後未在ニ所ニ惡徒等  
多ク在テ甲信平均静謐ニ非ニ是ニ依  
テ大神君大須賀五郎左衛門岡部次  
郎右衛門及七穴山力士等ヲテ甲州  
ニ赴セ給フ是ニ於テ岡部及七穴山力  
士甲州古府ニ至ル大久保七郎右衛門  
忠世モ又命ヲ奉テ焼口ニ至ル石川  
長門守本多豊後守相續テ至ル故ニ甲

州頗ル平均ニテ武田力舊臣等吾將ニ  
憑テ大神君ノ幕下ニ属セニ事ヲ請  
フ吾將是ヲ濱松ニ演達ス大神君命  
有テ曰ク能ク忠否ヲ携ヘテ功有ル者  
ニハ舊領ヲ安堵セシメ給ハシトノ事  
也吾諸將是ヨリ信州ニ入テ兵ヲ若御  
子ニ張ル甲州ノ小尾津金武川ノ志踵  
ヲ緋テ来リ加ル吾先軍諏訪ニ至リ大  
久保力計畧ヲ以テ諏訪小太郎頼忠ヲ  
シテ大神君ノ旗下ニ属セシム大州



知久下條等各大神君ノ旗下ニ服ス  
小笠原掃部亮信嶺大神君ノ幕下ニ  
屬シテ忠ヲ尽スヘキノ旨菅沼藤截ヲ  
以テ是ヲ請フ大神君是ヲ許シ給フ  
ニ依テ信嶺幕下ニ飯服又大神君是  
高山ノ麓天神川ノ古城ヲ修セシ又稲  
垣平右衛門長茂ヲシテ守テシ又給フ  
其後渡邊半藏稻垣ニ代テ是ヲ守ル  
一廿四日松平其次郎忠吉卒ス時忠  
吉カ子信吉ハ松平伊豆守信一カ養子

ト成テ藤井ノ家ヲ継クニ依テ其次郎  
忠吉嗣子ナシ故ニ忠吉カ甥内膳正家  
廣<sup>此</sup>カ<sup>一</sup>子<sup>郎</sup>忠<sup>忠</sup>ヲ養テ後嗣トス  
此月向井兵庫助始テ大神君ニ召出  
サレ食録ニ百俵ヲ賜フ

七月小

三日大神君甲州ノ難ヲ定給ハニ為  
ニ師ヲ帥テ濱招ノ城ヲ御進發有テ掛  
川ノ驛ニ着御松平至殿助家忠山口ニ  
陣ス



一四日 大神君田中ニ着御  
 一五日 大神君軍ヲ江尻ニ移シ給フ  
 一七日 大神君大宮ニ御陣座アリ  
 一八日 大神君庄地ニ着御  
 一九日 大神君甲府ニ着御家忠庄地ニ  
 陣ス  
 北條氏直四万余騎入軍勢ヲ奉ニテ信  
 州碓日峠ヲ越テ佐郡ニ出張ス  
 一十四日 大神君酒井左衛門尉忠次ニ  
 信州十二郡ヲ賜ル

一 候少十二郡棟別四系一其外法度等  
 不入手並ハ  
 一 波引付、面々、了為、其方計、候、御  
 等、一篇、之、向、事、公、之、退、屋、之、為、以、人  
 分、國、可、求、松、國、之、内、之、上、下、其、同、前、之、事  
 一 國中一篇、之、御、上、茂、二、年、本、知、令  
 一 所、勢、之、上、之、上、十二、郡、之、御、事、を  
 一 本、知、お、遠、之、事、を、以、國、家、同、前、之、事  
 一 玉、流、同、心、在、國、流、其、方、同、前、之、事  
 一 具、也、信、州、一、篇、之、向、之、河、原、一、之、事



日向少茂於遠近之事不可加下知

一信家若少和事多おるお遠を前々

知行其是義一可付并西の同公

一同前こころ

有之條々永少のありお遠維先制鏡

五々出重上を一切ふ可許客者之仍如件

天正十年

七月十四日家康

酒井左衛尉角

酒井忠次東三河ノ軍勢ヲ卒ニテ信州

伊奈郡ヲ賜ルニ依テ諏訪ニ至テ令ヲ

出シテ云ク信州悉ク忠次カ指揮スル

所ナリ諏訪小太郎頼忠モ忠次ニ從フ

ヘキノ旨ヲ觸遣ス頼忠是ヲ聞テ憤示

云ク我大神君ノ幕下ニ屬ス何以忠

次ニ從カハニヤト謂テ是ヨリ頼忠壘

ヲ堅メ火炮ヲ飛シ矢ヲ發シテ駈シク

忠次ヲ拒ク是ニ依テ大神君重テ大

久保七郎右衛尉尉忠世及ヒ折井市左



衛門尉次昌權田織部正ヲシテ諏訪ニ  
赴カシメ給フ 命有テ曰ク忠次カ言  
フ處ノ如クニハ非ス初命ノ如ク  
大神君ノ幕下ニ屬シ軍忠ヲ勵ムヘキ  
ノ旨也頼忠鈞命ニ後ト家人茅野丹波  
守房清澤市左衛門尉房重ヲ以テ甲府  
ノ御陣ニ指越シ 台命ノ實ヲ窺フ  
大神君茅野房清澤房重ヲ御前ニ召テ  
茅野ニ暑衣澤ニ胴服ヲ賜テ頼忠ニ弥  
旗下ニ屬シテ忠義ヲ盡スヘキノ旨

命セララル茅野澤 台命ヲ奉テ諏訪ニ  
飯テ頼忠ニ傳ル是ニ依テ頼忠其子頼  
永ヲ携ヘ甲州ノ御陣ニ參候シテ  
大神君ニ謁ス于殿御脇指保昌ヲ頼忠  
ニ賜フ 命有テ曰ク信州少々麾下ニ  
屬セサルノ所アリ汝速ニ諏訪ニ飯テ  
吾カ旨命ヲ待ツヘシ重テ令ヲ下シ玉  
フヘキノ旨 仰ヲ蒙テ頼忠父子諏訪  
ニ飯ル 大神君豆州柘植ニ砦ヲ修セ  
シメ牧野右馬允康成ニ命シテ守ラシ



之給ノ興國寺ノ城ヨリ是ニ移テ守ル  
志久野三郎左衛門尉宗能康成ニ加テ  
是ヲ守ル

一十五日酒井忠次諏訪ヲ薙ニテ大川  
原白須ニテ飯ル  
此日大神君武川ノ士折井市左衛門  
尉次昌米倉主計助ニ御書ヲ賜ル  
是ヨリ先キ今年三月大神君及ヒ信  
長甲州ニ御薙向有テ武田勝頼生害ス  
ルノ後甲州先方ノ士ヲ召ル事信長

堅ク是ヲ制スルト云ヘ氏大神君ノ  
士成瀬吉左衛門一齋先年暫ク武田ニ  
属スルノ脱折井カ厚恩ヲ受ル是ニ依  
テ成瀬一齋折井及ヒ米倉兩輩ヲ以テ  
竊ニ大神君ノ旗下ニ属セシム既ニ  
之テ此年六月信長生害ノ後大神君  
米倉折井ヲ召テ武川ノ諸士ヲ之テ御  
味方ニ属セシムヘキノ命ヲ奉テ甲  
州ニ飯テ武川ノ諸士ヲ之テ各々大神  
君ノ幕下ニ属セシム其後北條氏直武



川ノ士ヲ謀テ招クト云ヘ氏是三應七  
ス氏直ニ志ヲ通スルハ士楮菴儿所  
若信州ノ境小沼ノ小屋武川ノ兵士等  
是ヲ攻撃テ其利ヲ得タリ  
一十七日 招卒至殿助家忠及ヒ参辨  
諸士大川原ニ陣ス  
一十八日 参州ノ軍勢等諏訪ニ屯  
一廿二日 高鳥ノ城和融成テサレニ依  
テ酒井忠次三州ノ軍勢及ヒ小笠原掃  
部亮信嶺等軍ヲ高鳥ニ聚ス

一廿四日 夜ニ入招卒又七郎家信十子三  
歳カ陣ニ敵襲来テ攻撃家信未若年ナ  
リト云ヘ氏武功ノ家人等多少屬スル  
ニ依テ又七郎カ陣日夜ノ警衛敢テ怠  
タラス伍ヲ乱サス列ヲ整ヘ是ヲ拒ク  
ノ間敵終ニ利ヲ失テ退ク  
一廿六日 夜ニ入招卒至殿助家忠伏兵  
ヲ設ク敵數軍ヲ討捕ル 大神君其軍  
功ヲ稱シ玉フ  
此日 大神君依田右衛門佐二采地ヲ







